



# 第45回 鹿児島県青年・女性 漁業者活動実績発表大会

平成11年 1 月 14 日

於 鹿児島市民文化ホール

## 会 次 第

|   |                                |           |
|---|--------------------------------|-----------|
| 1 | 開会及び日程説明                       | 1 2 : 3 0 |
| 2 | 活動実績発表〈1人につき18分（発表13分＋質疑5分）〉   | 1 2 : 3 5 |
|   | (1)種子島漁業協同組合                   | 濱山 正文     |
|   | (2)西目漁業協同組合                    | 猿楽 敦      |
|   | (3)笠沙町漁業協同組合青壮年部               | 上村 一郎     |
|   | (4)指宿市漁業協同組合婦人部                | 中村ミチ子     |
|   | (5)上甕村漁業協同組合                   | 濱田 史郎     |
|   | (6)内之浦町漁業協同組合小型船主会             | 飯山 朋弘     |
|   | (7)名瀬漁業協同組合                    | 藤田 秀光     |
| 3 | 講演 「生活とユーモア」<br>薩摩狂句渋柿会会長 三條芳文 | 1 4 : 4 0 |
| 4 | 抽選会                            | 1 5 : 3 5 |
| 5 | 審査員結果発表                        | 1 5 : 5 0 |
| 6 | 感謝状及び記念品授与                     | 1 6 : 0 0 |
| 7 | 閉会のことば                         | 1 6 : 1 0 |
| 8 | 万歳三唱                           | 1 6 : 1 5 |
| 9 | 閉会                             | 1 6 : 2 0 |

## 審 査 委 員

|                                           |           |
|-------------------------------------------|-----------|
| 鹿 児 島 大 学 水 産 学 部 教 授                     | 島 秀 典     |
| 鹿 児 島 県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会 副 会 長           | 上 田 喜 八 郎 |
| 鹿 児 島 県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会 専 務 理 事         | 柴 貞 雄     |
| 鹿 児 島 県 信 用 漁 業 協 同 組 合 連 合 会 専 務 理 事     | 重 吉 恵 夫   |
| 鹿 児 島 県 漁 業 協 同 組 合 婦 人 部 連 合 会 会 長       | 宇 都 鈴 江   |
| 鹿 児 島 県 水 産 試 験 場 長                       | 塩 満 暁 洋   |
| 鹿 児 島 県 林 務 水 産 部 林 務 水 産 課 長             | 古 市 逸 朗   |
| 鹿 児 島 県 林 務 水 産 部 水 産 振 興 課 長             | 前 田 和 宏   |
| 鹿 児 島 県 農 政 部 経 営 技 術 課 生 活 改 良 専 門 技 術 員 | 四 元 早 苗   |

## 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| ○私の漁業と将来の展望 .....       | 1  |
| 種子島漁業協同組合 濱山 正文         |    |
| ○異業種交流を通して .....        | 6  |
| 西 目 漁 業 協 同 組 合 猿楽 敦    |    |
| ○私たちの青壮年部活動 .....       | 10 |
| 笠沙町漁業協同組合青壮年部 上村 一郎     |    |
| ○地域に呼びかけ、ともに取り組んで ..... | 15 |
| ～虹のかけ橋、子供達へのプレゼント～      |    |
| 指宿市漁業協同組合婦人部 中村ミチ子      |    |
| ○よみがえれ！甌のアワビⅡ .....     | 21 |
| ～上甌村漁業協同組合青壮年部の取り組み～    |    |
| 上 甌 村 漁 業 協 同 組 合 濱田 史郎 |    |
| ○ゆとりある漁業経営を目指して .....   | 29 |
| ～次世代に夢を与えるための挑戦～        |    |
| 内之浦町漁業協同組合小型船主会 飯山 朋弘   |    |
| ○沖合漁業に魅せられて .....       | 34 |
| 名 瀬 漁 業 協 同 組 合 藤田 秀光   |    |

# 私の漁業と将来の展望

種子島漁業協同組合 濱山 正文

## 1 地域の概況

種子島は、本土最南端の佐多岬から南方約43kmの洋上に位置する細長い島で、1市2町から成る人口約4万人、1次産業の盛んな島である。

鉄砲伝来の島として有名だが、現在はロケットの打ち上げ基地で知られる種子島宇宙センターがあり、宇宙開発の島でもある。

私の住む中種子町は、島の中央部に位置し、農林漁業を主な産業とする人口約1万人の町である。(図1)

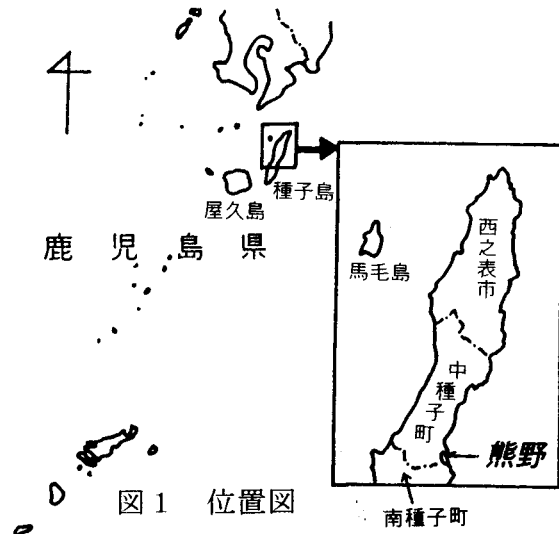


図1 位置図

## 2 漁業の概要

種子島漁協は、平成5年12月1日に西之表市漁協と中種子町漁協の広域合併によって発足し、平成9年度で正組合員497名、准組合員327名の計824名、水揚量1,534トン、水揚金額11億6千6百万円である。

種子島の主な漁業は一本釣り、磯建網、トコブシ漁、キビナゴ流網、トビウオロープ曳き網網等であるが、その中で一本釣り漁業は、漁獲金額で2割を占め、当漁協の基幹漁業といえる。(図2、図3)

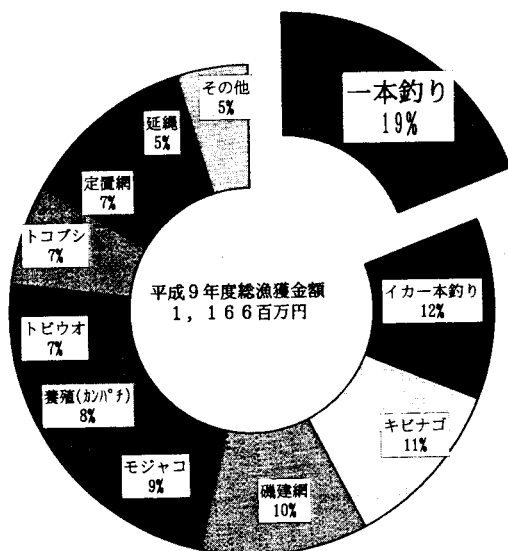


図2 種子島漁協漁業種類別漁獲金額の割合

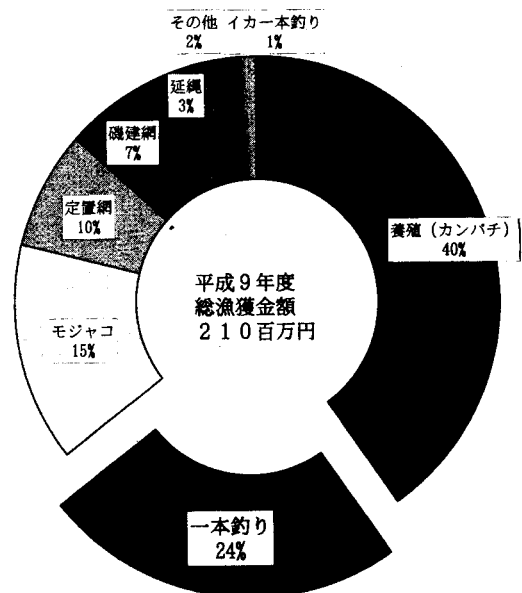


図3 中種子支所漁業種類別漁獲金額の割合

中種子町は、東側に5浦、西側に8浦、計13の浦があり、熊野港には種子島漁協中種子支所がある。沿岸は東は太平洋、西は東シナ海に面し、両海域とも天然礁に恵まれた好漁場となっており、東においては一本釣り漁業を主体に定置網、刺網漁業が、西においては

刺網漁業を主体に流網、曳縄、定置網漁業等の漁船漁業が営まれている。

私の住む熊野地区は東海岸に位置し、一本釣り漁業で栄えてきたが、平成9年度からは熊野漁港においてカンパチを中間育成して本土に出荷する魚類養殖業が営まれており9年度の水揚げ金額は中種子支所の約4割を占めている。

ここ数年は漁船漁業による収益は減少傾向にあり中種子支所での水揚げ金額は2億円強にとどまっており、熊野のカンパチ養殖も、漁場環境の悪化等により、これ以上の収益は望めない厳しい状況にある。

図4に種子島漁協総漁獲金額、図5に種子島漁協一本釣りの漁獲金額を示す。また図6に種子島の市町別漁獲量の推移を示す。

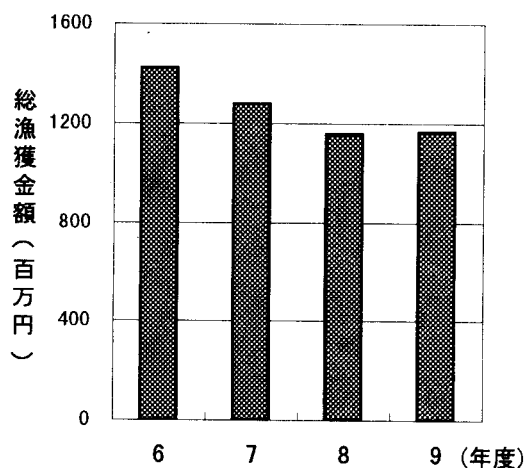


図4 種子島漁協総漁獲金額

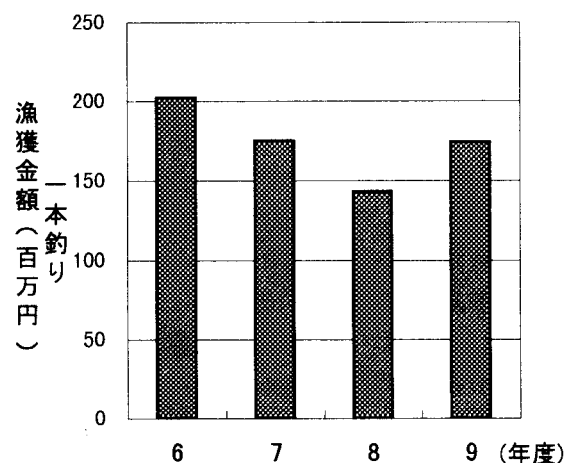


図5 種子島漁協一本釣り漁獲金額

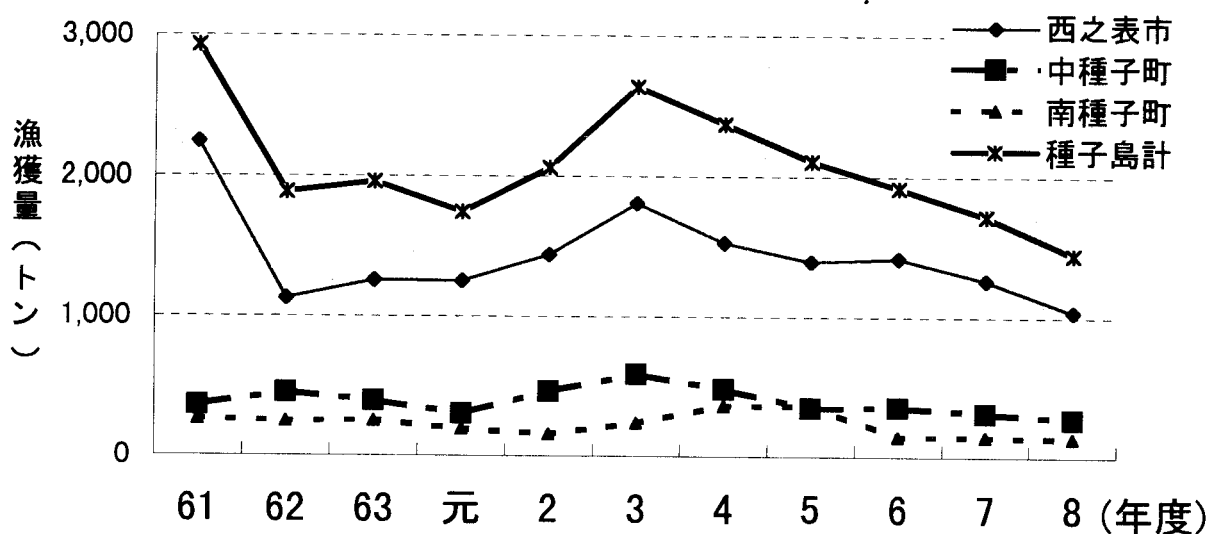


図6 種子島市町別漁獲量

### 3 一本釣に従事するまで

私は東海岸の熊野港を基地として主に一本釣漁業を営んでいる。漁業に従事したきっかけは、一本釣り漁業を営んでいた父を幼い頃から見ており、いつかは父と共に漁業をやりたいと思っていたからである。

中学卒業と同時に父と働きたいと考えたが、両親の勧めもあり、昭和55年、枕崎の鹿児島水産高校漁業科に入学した。

高校3年間の中でもハワイ沖にまで行った遠洋実習は強く思い出に残っており、この経験はその後の人生に大きく影響を与えていると思う。

昭和58年に卒業し、すぐに島に帰って父とともに漁業をしようと考えたが、そのまま親元で働くよりも、他人の飯を食った方が良いと思い、卒業と同時に福岡の以西底曳網漁業の多田水産に就職することになった。

入社当時の以西底曳網はまずまずの景気だったが、3年後には200海里問題、漁獲の減少、魚価の低迷等、様々な厳しい状況が到来した。そのような厳しい状況の中、幼い頃からの夢であった、「父と一緒に漁業をする」ということが、再度、脳裏をよぎり、父も大賛成してくれたので、Uターンを決意した。

昭和61年に種子島にUターンし、それと同時に、漁船を購入した。私が第2の人生をかけて乗る船は4.8トン70馬力の浜萬丸であった。

### 4 現在の漁業形態と現状について

現在の使用漁船は浜萬丸4.9トン90馬力である。この船はモジャコ漁における効率化を目指すために、より速い船を導入しようということで、平成3年に購入した。

ここで近年の年間操業状況を表1に示す。

表1 月別操業状況

|           | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 瀬物一本釣り    | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- |
| 〃 (屋久新曾根) |       |       |       |       |       |       | ----- | ----- |       |       |       |       |
| タルメ夜釣り    | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- |
| モジャコ      |       |       |       | ----- | ----- |       |       |       |       |       |       |       |
| 定置        | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- |

一本釣りは主にホタテ、イナゴ、キンメ、チビキ、アラ、タイ、タルメ等の瀬物ねらいで周年操業をしており、日帰り操業がほとんどで、漁場は熊野漁港から10～20マイル沖合の水深180～300mの場所である。また、夏場は屋久新曾根まで下り3～4日の操業をする。

タルメ夜釣りは、値段の良い1月～2月頃に行い、モジャコ漁は4月～5月、定置網漁業については、昨年からは、7月～10月の台風時期を除く時期に従事している。

定置網のある時期は、朝6時から7時30分頃まで定置網に従事し、朝8時から是一本釣りに出かけ、日没頃まで操業し帰港する。

5年前に父が他界した後、1人で一本釣りの操業に出ることが多かったが、昨年からは乗りに東京出身のサーファーを1人雇い、現在は常時2人で一本釣りの操業に出ている。

ここで主とする一本釣りの漁具を示す。(図7)

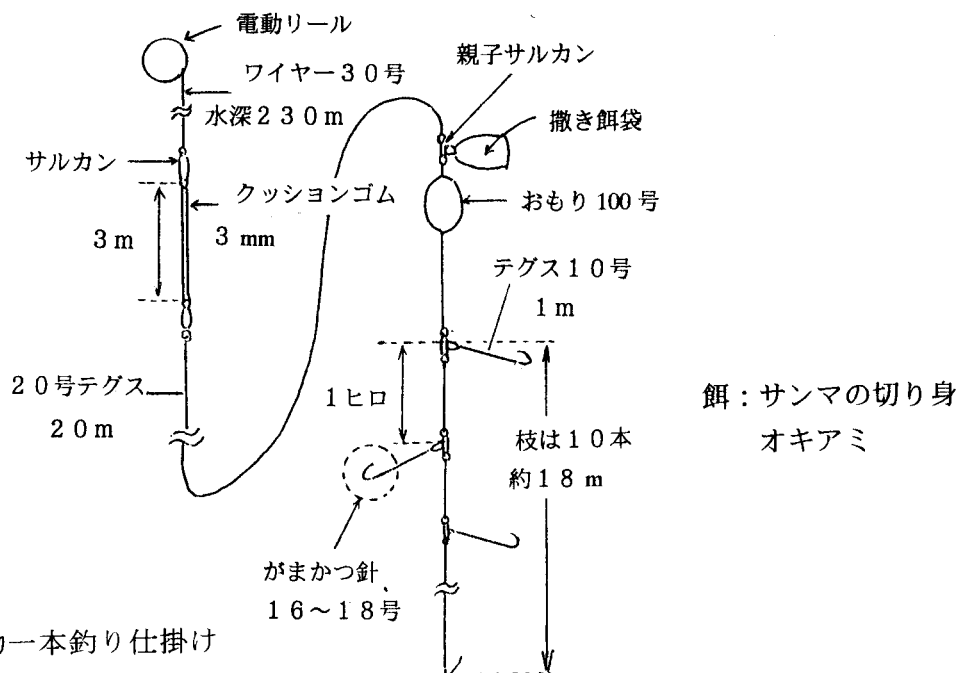


図7 瀬物一本釣り仕掛け

## 5 青年部活動

先にも述べたとおり、種子島漁協は平成5年に発足したが、それと同時に西之表市漁協、中種子町漁協のそれぞれの青年部も合併して種子島漁協青年部となった。

現在、実務の関係上、西之表支部、中種子支部として、それぞれ支部長を立てて、どちらかの支部長が種子島漁協青年部の部長を兼ねることとなっている。

私は平成 8、9 年度の 2 年間、中種子支部の青年部長を勤め、西之表支部と連携を取りながら、青年部活動に参加してきた。

現在、種子島漁協青年部の部員数は31名であり部員資格は40歳までとなっている。地区別年齢構成は表2のとおりである。

表2 種子島漁協青年部員構成（単位：人）

|        | 西之表市 | 中種子町 | 合計 |
|--------|------|------|----|
| ～20歳   | 1    | 0    | 1  |
| 21～25歳 | 3    | 2    | 5  |
| 26～30歳 | 6    | 3    | 9  |
| 31～35歳 | 8    | 2    | 10 |
| 36～40歳 | 5    | 1    | 6  |
| 合計     | 23   | 8    | 31 |

31名中、23名が西之表、8名が中種子で、中種子においては、後継者が不足していることを物語っているが、最近では高校卒業と同時に漁業に従事する者もいる。

また、種子島はサーフィンの島としても有名で、島には若いサーファーが在住しており、私の所のように乗り子として従事している

若者も多いと聞いているので、若い労働力の確保には望みがあると考えている。

ところで、私達中種子の青年部では月に一度定例会を設け、将来の漁業について話し合いを持っている。議題がないときでも集まって、ビールを飲みながら一本釣等の情報交換を行っている。さらに、下記のような活動をしている。

(活動内容)

- ・ 海岸や港内の清掃，（婦人部とともに随時）
- ・ 港まつりの準備，参加
- ・ 中種子町夏祭り出店（8月）



- ・ 中種子町農林漁業祭出店（11月）
- ・ 他漁協青年部との交流会
- ・ 研修視察
- ・ 中種子町商工会青年部，農協青壮年部，漁協青年部交流会
- ・ 種子島地区漁協青年部交流体育大会

特に今年は海の日の海岸清掃活動，9月には中国からの漂着ゴミの回収も実施した。

上記のとおり，私たちは他の漁協青年部はもとより，漁業関係者に関わらず他の組織の人たちとも積極的に交流している。

このような場が私達若手漁業者にとって，他地区の産業を知り，また，人を知り，若手漁業者の連帯感を生む貴重な場となっている。

## 6 将来の展望

新船を購入して漁業を始めた頃は，種子島近海では瀬物類の資源が豊富で，将来有望と考えていたが，近年は不漁に加え魚価の低迷により，今の漁業を後何年続けられるだろうか不安になっているのが現状である。

これから先，漁業で生計をたてるためにはそれなりの工夫と努力が必要になってくると考え次の3点を念頭において頑張っていきたいと思う。

1つは，複合的な漁業の実践である。ここ数年は，定置をしたり，夜釣りをしたり，モジャコ漁をしたり複合的な漁業の実践に勤めてきたが，これから先も年間を通して様々な漁法を取り入れ，これらをうまく組み合わせることが経営の安定・向上につながり，さらには，時期的な操業をすることで瀬を休めることができ資源の保護にもつながると思う。

また，今後は瀬物だけに頼らず，カツオ，シビ等の回遊魚を組み入れることを考えている。種子島はそもそも黒潮の恩恵を受けている海域であり，回遊魚の来遊も大いに期待できる。昨年末，種子島海域でも複数の中層魚礁の設置がなされ今後の漁に期待がもてると考える。

2つめに魚価の問題である。昨今の恒常的不況は魚価の低迷をも招き，我々漁業者の生活を圧迫している。これからは，少ない漁獲の中で，少しでも利益が上がるような漁をし流通をさせていかなければならない。そのためには，魚の取り扱い，特に鮮度保持については消費者からの評価が得られるように努力する事が我々生産者の責任であるし，そのことが高値をつけることにつながると思う。また流通販路の拡大を図ることで，少しでも高く売れるよう常に情報交換をしていくべきと考える。しかしながら，このことに関しては漁協，漁連，仲買業者の協力が必要不可欠である。特に魚価の底上げには漁協単位で絶えず新しい市場の開拓をしていく等の企業努力が必要だと考える。種子島の魚を少しでも高く買ってもらえるのならば，我々漁業者はさらに頑張り，明日への活路も次第に見えてくると思う。

3つめに，先にも述べたような青年部活動などを通じ，他の地区の漁業者とも広く交流を深め，新しい技術を積極的に導入することで自らの技術を高めていきたいと考えてる。

また，漁業者だけでなく，他のいろいろな人々と交流することで広い視野をもって，現在の厳しい現状を乗り越えていくすべを模索していきたいと考えている。

昨年は例年になく高水温で，種子島沿岸のサンゴも白く枯れてしまうほど漁場の環境は変化し，不漁の年ではあったが，ここが正念場と思う。父から受け継いだこの海を，漁業を絶やさぬよう，いつの日かまた昔のような豊かな海がよみがえることを夢に見て，頑張っていきたいと思う。

# 異業種交流を通して

西目漁業協同組合 猿楽 敦

## 1 地域と漁業の概要

阿久根市は鹿児島県の北西部に位置し、北は八代海、西は東シナ海に面し、誇り高い水産の歴史をもつ港町で、約40キロメートルに及ぶ海岸線は変化に富み、阿久根大島をはじめ大小4つの島を有する風光明媚な所で、全国の「水浴55選」にも選ばれています。沖合は東シナ海を北上する対馬暖流と、南下反転する分流の影響を受けて、温暖な気候と好漁場が形成され、昔から阿久根を中心基地として沿岸近海漁業が盛んに行われ発展を遂げてきました。市内には北から黒之浜・阿久根市・西目の3漁協があり、南に位置する私の西目漁協は組合員104名（正組合員73名、准組合員31名）、漁船隻数112隻で、経済事業は行わず、組合員の賦課金のみで運営している小さな漁協です。主な漁業は刺網、一本釣、採介藻漁業です。



図1 位置図

## 2 異業種交流のきっかけ

私は地元の高校卒業後、福岡の大学に進学し、昭和57年に大学卒業後は福岡の電気関連の会社に就職しましたが、家庭の事情により昭和58年には帰郷し、父のやっている漁業を後継者として手伝うことにしました。その頃の父の漁業は吾智網と刺網で、現在も同じ漁業形態で操業しております。現在では私の漁業歴も15年になります。

田舎では消防団活動や青年団活動はどこでもあります。私もこれらの団体で活動をしていました。漁協には青年部組織はなく、やはり漁業関係の若い組織を作りたいと思い、帰郷して2～3年したときに青年部を結成しようとしたのですが、若者が少なかったり、関係者の理解が得られず、残念ながら結成するに至りませんでした。現在では、漁協に若い組合員は私を除くと他にはいません。私にとっては、やはり同じ漁業に従事する若者の組織があると大変うれしいことですが、それもありません。

そういった状況下で漁業を始めて9年たった平成5年に、阿久根青年会議所の会員になっている同級生から入会しないかと声をかけられました。私も若者同士の語らいの場がほしい最中だったので、すぐに入会しました。

## 3 青年会議所の活動

阿久根青年会議所の会員は、以前60名ほどはいましたが、現在は20名です。これも阿久根の町にも若者が少なくなったことが主な原因のようです。会員の職業は建設業、商店、町工場等の2代目がほとんどです。私はそれからすると異例かもしれません。

会議所の役員は理事長をはじめとする理事8名と他3名の役員で構成されています。

会議所には、町づくり委員会、総務委員会、会員交流委員会の3つの委員会があり、ボランティア活動を通じた「町づくり」を最大の目的としています。この「町づくり」の

ために各種イベントを会議所が主催、もしくは共催で行っております。主な活動は夏祭り、各種団体長交流会年2回（漁協青年部、農協青年部、アグリス、ロータリークラブ、商工会議所青年部、水産研究会等）、市長との懇談会、市民を対象とした講演会（近年は環境問題等）、各種モニュメント作成等があり、平成2年から5年には南こうせつや爆風スランプ等呼んでサンセットコンサートを開催し、人を集めるイベントとしては高い評価を得ました。又、現在市で毎年7月に行われている3万人クリーン作戦は青年会議所の発案で始まり、市民に定着した行事として続いています。

活動は阿久根市内だけでなく、年1回お隣の水俣との交流会や県内12の青年会議所との協議会、知事との懇談会、県外視察等もあります。

私も平成5年に入会してから7年に夏祭り実行委員長、8年に町づくり委員長、9年に副理事長、10年の1月からは理事長をしております。

特に理事長になってからは、各種会合等が少ない月で10日、多いときには20日はあります。私も妻と2人の子供を食べさせなければなりませんので、沖の漁と会合が重なるときは代理出席をお願いすることもあります。

活動をするにあたっては、自分で企画立案したイベント等について実施時期、具体的な内容、予算等を十分に煮詰めて理事会に諮り、承認を得られれば、その目的達成のためにあらゆる手段をとって活動します。具体的に詳細なことまで詰めていないと理事会では簡単に却下されます。たとえ小さな活動であっても全てこのような方法をとっております。こういったことも会員一人一人の資質向上につながると考えています。

活動を通して最も苦勞するのは、人を動かすこともしくは人を集めることです。私が町づくり委員長を務めたときは、環境問題がクローズアップされ始めたときであり、環境問題について著名な高木善之氏を講師に、市民対象の無料の講演会を開催しました。人集めに2ヶ月前から新聞折り込みのチラシとポスター貼りはもとより、個人への電話や各種団体の会合にもおじゃまして講演会への参加依頼を毎日のようにしました。当初参加人数を600名予定していましたが、苦勞の甲斐なくというか、方法が悪かったのか、努力が足りなかったのか、結果として半分の約300名の参加にとどまりました。この時に人集めの難しさを思い知らされました。

#### 4 会議所を経験して

会議所の活動を通じて、私自身変わったことは、人前で話をする事が出来るようになったことです。以前は口べたで、人前で話をする事自体が億劫でしたが、現在ではあまり苦になりません。

次に考えを早くまとめることです。自分自身の考えもですが、他人の意見等をまとめて次のステップへ進めるコツを覚えました。

逆に、いろんな業種の人と接する機会が多いわけですが、いろんな立場からの意見が出され、その調整が非常に難しいことも分かりました。

また、異業種の方との雑談等で経営戦略を聞く機会もあり、参考にしたいと思いますが、現在はどこも不景気で各業界の非常に厳しい現状を目の当たりにするだけです。

一番の成果は市内、市外はもちろん県外の多くの人とも知り合えたことです。多くの人とのつながりを得たことでいろんなことを学びました。例えば、先ほど紹介した高木善之氏は大手電気メーカーに勤務していた当時、とある事故で瀕死の重傷を負った時に閃いて、残りの人生は環境問題に取り組もうと決意し、常に自分の箸を持ち歩いて割り箸は使わないようにしているそうです。また、ある時は会議所の九州地区大会の席上で他県の会員の1人がタイのある小さな村にボランティアで行こうと呼びかけたことがきっかけとなり、約150名が各家庭で不用になった品物を手荷物で抱えて自費で行った

こともありました。

このように人が考えないようなことをいとも簡単に言っただけのけるなど、「どうしてこの人はこのような発想が出てくるのだろうか」と感心させられることがしばしばあります。私もそのようなところは学ぶように心がけております。

## 5 水産研究会について

阿久根市には平成4年2月に結成された「阿久根市水産研究会」というのがあります。研究会の活動については平成5年に詳しく発表しておりますので、今回は簡単に触れさせていただきます。

会員は漁協、水産加工業者、鮮魚仲買等の水産関係業者の若手で構成され、これは阿久根の食のPRや地域の活性化を目的とし、研修会、視察、朝市等を実施しているところです。現在、私も研究会の幹事として参画しております。研究会は朝市部会、研修部会等で構成され、各部会が主体となって活動を行っております。また、幹事会を月平均1回程度の割合で開催し、会の運営等について話し合っております。朝市は毎月第2日曜日に実施しており、今ではすっかり定着し、毎月これを目当てに遠方より来られる方もおられます。

活動の中で最も大きなイベントは毎年8月に実施している「おさかな祭」です。「おさかな祭」は研究会のメンバーが主体となった「おさかな祭実行委員会」が主催します。特に本年度は昨年の地震災害からの復旧工事完成と沈滞ムードが漂う阿久根市に活力を入れることを目的に市が主体となった「阿久根みどこい祭」の一環として実施しました。

この為、今年のおさかな祭はステージイベントも郷土芸能、吹奏楽演奏、カラオケ等内容を例年にも増して充実させました。また、一般参加者イベントも例年であれば、各イベント間に合間がありましたが、今年の場合つかみ取りはタイとウナギの2種類で、それに魚の重量当てクイズ、ボンボン釣り、抽選会とイベントが途切れることのないようにしました。

このように研究会は魚食普及、魚の町阿久根のPRを目的に活動しておりますが、設立後7年経過しており、ある例会で近頃中だるみで、当初の目的を忘れていたのではないかとという会員からの手厳しい意見も出されたことがありました。しかし、このような意見を出してもらえることはうれしいことであり、今後の活動への活力となると考えます。

## 6 漁業の現状

ここで漁業の現状について述べてみたいと思います。先にも述べましたが、私は吾智網と刺網それとウニ漁業に従事しています。吾智網は4～5月と8～12月、他の月が刺網で、ウニは3月だけです。

吾智網の場合、漁業を始めた15年位前は出漁すればそれなりの漁獲はありました。しかし現在は漁獲量が少なくなりました。主な漁獲対象はエソ、イトヨリ、イボダイ、コウイカ等ですが、私の感じからするとエソの漁獲量は横ばい状態です。しかし、他の魚種については15年くらい前に比べると6分の1～5分の1になっています。エソで喰いつないでいけないかとも思いますが、エソを始め他の魚種も価格低迷で厳しい現状です。

ウニについては、年々大きさが小さくなっているように感じます。これは餌となる藻場が少なくなっているからだと思います。小さくなると数をこなしてしまう傾向にあります。また、漁期がいくぶん遅くなっているようにも感じます。放流により資源的にはどうにかなりそうで、現在やっている共同出荷に資源管理をやれば、ウニ漁主体にやっ

ていけるかとも以前は考えましたが、ウニも価格が年々安くなり、ウニ主体では、とてもやっていけません。去年から価格調整と資源管理の面からガンガゼとアカウニについては一時的に禁漁期を設けることになりました。

このことは他の漁業についても同様で、このような厳しい現状からすると、これからは業者間で十分な話し合いの場を持ち、資源管理を推進する必要があると思います。幸いに、阿久根市の場合は各種業者会があり、この業者会、関係漁協及び行政と連携をとりながら資源管理をやっていないとこれからの漁業の存続は難しいものと考えます。また価格低迷についてもエソ等付加価値を高める事は出来ないか検討する必要があります。エソについてはいくらか検討もし、過去に業者会ですり身づくりをしたり、塩干等関係業者とも話をしてみましたが、今のところ具体的な策はありません。

## 7 今後の地域及び水産の活性化について

最後に、私が最近、思う地域と水産業の問題点について述べたいと思います。

まず地域ですが、各種団体がバラバラで動いているということです。地域活性化の為に各種イベント等も各種団体が一致団結して動かないと良い成果は得られないように思います。水産の町阿久根もマイワシ資源の急激な減少や平成9年3月の地震で大きな打撃を受けて沈滞ムードがある中でこそ、一致団結が不可欠であろうと考えます。

阿久根には阿久根大島、黒之瀬戸等すばらしい自然があります。「阿久根、うまいね、自然だね」というキャッチフレーズはありますが、このすばらしい自然と食を十二分に活かしきっていません。この自然と阿久根の食を併用して地域活性化を図っていく必要があると思います。

次に、各種団体長交流会でも最終的に話題となる水産業の現状についてです。業種は違えど水産の話に熱がこもってくることは、やっぱり阿久根は水産の町だとつくづく感じます。そしてよく言われるのが、「水産はもちっとキバレよ」です。

水産ではどうして漁協合併が進まないのか。弱小漁協の私がいうのはおこがましいですが、これからの水産業は地区の小さなエゴは捨て共同体制でやっていかないと難しいと思います。組織を拡大し、話し合いの輪を拡大してみんなで知恵を出し合い、現在及びこれからの厳しい状況下を乗り切らなければなりません。

当地には先程述べた水産研究会という組織がありますので、今後も地域活性化につながるような活動ができるよう会員の一人として頑張りたいと思います。また、各種団体長交流会を発展させた会員交流会を去る11月30日発足し、第1回目の交流会を開催しました。この水産研究会や各種団体会員交流会を通して関係機関へもっと若者の意見を取り入れてもらえるような体制づくりも必要かと考えます。

最後に、若い後継者が自分一人だけという小さな漁協の一組合員ですが、会議所での経験を活かしていけるような場づくりを考えながら、これからの漁業に取り組んでいきたいと思っています。

# 私たちの青壮年部活動

笠沙町漁業協同組合青壮年部 上村 一郎

## 1 地域と漁業の概要

私達の住む笠沙町は、薩摩半島の南西端に位置し、神話のふるさととされ神渡海岸等多くの名所旧跡がある。また三方を東シナ海に面し、耕作地が少なく、漁業が町の基幹産業となっている。

地先漁場は吹上砂丘に続く平坦で天然礁に乏しい海域と、野間岬周辺の岩礁性海岸に面した海域とに大別される。

笠沙町には笠沙町漁協と野間池漁協とがあり、私達の笠沙町漁協は組合員409名で、魚類養殖業、定置網漁業を中心に、刺網、一本釣、曳き縄漁業等多種の漁業が営まれており、平成9年度販売事業実績は1,479トン、8億9千9百万円となっている。

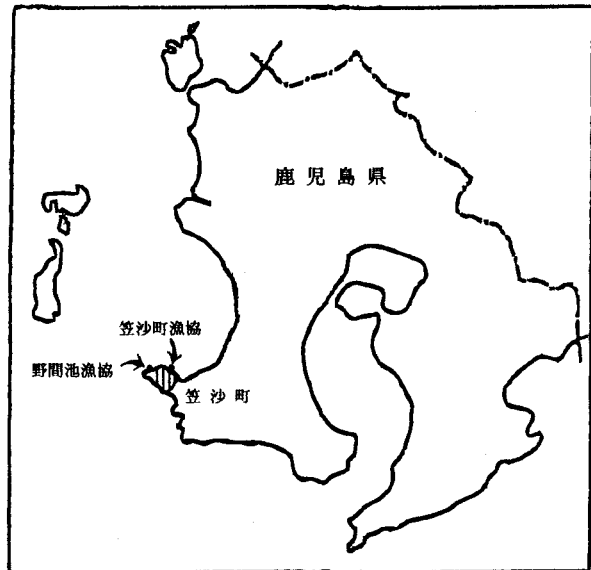


図 漁協位置図

## 2 研究グループ結成の経緯、組織及び運営

笠沙町漁協青壮年部は平成7年6月に設立し、45歳以下の部員で構成され、そのほとんどが養殖業または定置網漁業に従事している。

以前から養殖振興会、定置網振興会や一本釣振興会など漁業種別グループがあり、各振興会内でわずかばかりの青壮年の交流はあったものの、漁業種類を越えた交流は全くないといった状態であった。

私たち青壮年漁業者が議論や意見交換をとおして交流を深め、互いに研鑽、地域活動、漁協活動に参加していく中で、浜に活気を取り戻せばとの考えから青壮年部を設立した。

現在、漁業後継者のほか組合員の子弟で主旨に賛同する員外からの加入者を含め部員25名で構成され、部長、副部長各1名、委員4名を中心とし、各種活動に取り組んでいる。

## 3 活動課題選定の動機

設立初年度は、部員相互の親睦を図るための交流事業が主で、そのほか浜清掃、魚供養祭、振興大会、リーダー研修会といった外部の催事に参加する程度であったが、次年度から、以下の課題を柱として順次活動の場を拡げている。

### 1) 地域イベントへの参加

笠沙町では、町おこしの一環としていくつかのイベントが実施され、町おこしのためにはまず私たちが積極的に参加すべきではないかと考え、部活動の柱とした。

### 2) 栽培漁業の推進

笠沙町や漁協ではヒラメ、マダイのほかカサゴ、ガザミの放流等栽培漁業を積極的

に推進しており、これからの漁業を支えていく上で重要であるとの認識から部活動の柱とした。

### 3) 漁業後継者と女性との交流会

1日の大半を海の上で過ごす私達は、ほとんど女性と交流をする機会がなく、あったとしても何を話して良いのかも判らないのが現状である。女性との交流をとおり、女性を含め様々な人々と積極的に交流することが出来ればと部活動の柱とした。

### 4) 各種研修会の開催

設立の大きな目的の一つである仲間づくり、そして漁業後継者として漁業技術は勿論、漁業経営や漁協運営等幅広く知識を学習する必要があることから、研修事業、交流事業を部活動の柱とした。

## 4 活動の状況及び成果

平成9年度活動実績及び9年度決算は別表の通りである。

| 平成9年度活動実績 |                                                                |           |                                                                     |
|-----------|----------------------------------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------------|
| 月         | 活動実績                                                           | 月         | 活動実績                                                                |
| H 9<br>4  | 漁青連総会出席<br>部長ほか役員 4名<br>杜氏の里祭り<br>出店協力 10名                     | 10        | 視察受入れ、意見交換会<br>茨城県水産振興課<br>マリンランド笠沙フェスタ<br>鮮魚加工品コーナー出店<br>ドラゴンボート出艇 |
| 5         | 女性との交流会 23名<br>クジラウォッチング<br>体験放流(メジナ他)<br>タイ中間育成種苗受入れ<br>336千尾 | 11        | 漁青連現地研修会 7名<br>甌島視察<br>地区漁協長連絡協議会                                   |
| 6         | タイ放流種苗受渡し(6漁協)<br>4万尾放流                                        | 12        | 漁青連役員会・研修会                                                          |
| 7         | 漁青連役員会<br>ボウリング大会<br>海岸清掃 12名<br>魚供養祭                          | H 10<br>1 | 役員会<br>月例会、総会開催協議                                                   |
| 8         | 視察研修 14名<br>諫早湾干拓事業<br>漁網製造工場                                  | 2         | 月例会<br>植樹祭(さしき島) 7名<br>スーパー松120本                                    |
| 9         | 漁青連・漁婦連合同研修会<br>漁青連役員会・講演会<br>部長ほか役員2名                         | 3         | 役員会<br>総会資料協議・確認<br>漁青連役員会                                          |

| 活動課題                             |
|----------------------------------|
| 1. 地域イベントへの参加<br>地域住民の参加、住民自らの参加 |
| 2. 栽培漁業の推進<br>放流、魚礁・藻場設置事業       |
| 3. 女性との交流会<br>漁業後継者対策、町のPR       |
| 4. 各種研修会の開催<br>漁業技術、経営等の情報交換     |

## 平成9年度決算

### 収 入

| 科 目 | 決 算 額     | 備 考          |
|-----|-----------|--------------|
| 繰越金 | 615,972   |              |
| 会 費 | 50,000    | 25名×2,000円   |
| 補助金 | 500,000   | 町、漁協補助、交流会補助 |
| 雑収入 | 1,252,412 | 中間育成、フェスタほか  |
| 合 計 | 2,418,384 |              |

### 支 出

| 科 目   | 決 算 額     | 備 考          |
|-------|-----------|--------------|
| 研修費   | 317,268   | 長崎、甌島        |
| 旅費交通費 | 58,000    | 漁青連総会、役員会    |
| 負担金   | 31,420    | 漁青連          |
| 会議費   | 255,645   | 総会、月例会       |
| 事務費   | 33,540    | コピー代、事務手当    |
| 事業部費  | 333,686   | 交流会、フェスタ     |
| 教養部費  | 24,000    | ボウリング大会      |
| 雑 費   | 842,950   | 中間育成日当、見舞金ほか |
| 特別積立金 | 320,000   | 海外研修積立金      |
| 繰越金   | 201,875   | 次年度繰越        |
| 合 計   | 2,418,384 |              |

## 1) 地域イベントへの参加

### ①マリンランド笠沙フェスタ

笠沙町の農林水産まつりとも云うべき「マリンランド笠沙フェスタ」が毎年10月下旬に開催される。漁船パレード、祝い餅投げ、ドラゴンボート競争など水産関連催事が中心で、この進行に協力・参加した。

また婦人部と共同で魚を加工、販売し、今まで捨てていたイケガツオの一夜干し等町民からも非常な好評を得た。

なお、ドラゴンボート競争では部代表で参加し、今年度は接戦のすえ優勝することができた。

### ②各種催事への参画

神話のふるさとである当町では、杜氏の里祭り、福祉健康祭り、お伊勢講祭りなどいろいろな催事が行われており、役場からの要請を受け、駐車場の整理等裏方業務に協力している。

## 2) 栽培漁業の推進

漁協から青壮年部に対し豊かな海づくりパイロット事業に係るマダイの中間育成の要請があり、協議の結果、部員の総意で平成8年度から取り組んでいる。

土嚢作り、側張り、網替え作業や種苗の受け取り、引渡等は全部員参加で、また毎日2回の給餌作業は養殖業従事者を中心にグループ分けをし、最終的には全部員が給餌作業に従事するようにしている。

マダイは競り喰いの傾向が低いため、摂餌状況を見ながらおよそ1生簀2時間程度をかけ綿密な給餌作業を行っている。5月中旬全長30mmで引き受けたマダイ種苗は、6月中旬までの35日間の育成により全長75mm以上となり、生残率も70%以上の成績を得ている。育成したマダイ種苗は、数漁協に配布しているが、取りに来た漁業者から、「大きくて元気な良い種苗だ」と喜ばれている。

### 栽培漁業推進に係る活動実績

#### 1. マダイ中間育成

| 年度   | 受入れ   | 放流    | サイズ  | 箇所数 |
|------|-------|-------|------|-----|
| 平成8年 | 420千尾 | 300千尾 | 68mm | 6   |
| 9    | 420 " | 300 " | 77 " | 6   |
| 10   | 336 " | 240 " | 77 " | 6   |

#### 2. ヒラメ放流 (町中間育成、水産高校対応)

9千尾、小学生体験放流 3千尾

#### 3. ガザミ放流

片浦湾 68千尾

#### 4. カサゴ放流

小学生体験放流 9千尾

#### 5. イカシバ設置

900束

#### 6. イカ産卵礁設置

40基

#### 7. ワカメ藻場造成 (側張り、種苗補助)

浮延網式養成施設にて養成

## 3) 漁業後継者と女性との交流会

漁業後継者には未婚者も多く、花嫁対策もあって女性と交流する機会を作り、併せて笠沙町のPR、漁業に対する認識を深めてもらうため、「シーサイド イン 笠沙」---潮風香る笠沙で遊んでみませんか---と銘打って、8年度から町内外の独身女性との交流会を開催し、毎年10名以上、これまで総勢50余名の独身女性の参加をみている。

交流会の内容として、自己紹介を兼ねた茶話会、町内観光、クルージングをしながらのクジラ&イルカウォッチング、ボウリング大会等を実施している。毎年特にクルージングは喜ばれ、少しは海に親しんでくれたのではと思っている。また最近では部員も慣れ、パーティー形式の交流会は和やかな雰囲気で行っている。

その成果は、1ターンしてきた部員など5組がゴールインし、さらに2~3組が現在交際中であると聞いている。このようにそれなりの成果がみられ、今後、二世が誕



生し、漁業後継者にならんことを期待している次第である。

#### 4) 研修会、交流会の開催及び参加

研修事業として平成8年度から毎年1回自主研修会を開催している。研修実績は別表のとおり。

研修視察先までの往復や宿での時間は、部員同士が時間を気にすることなく語らせる良い機会ともなっている。

また、漁青連が開催する各種会合には必ず出席しており、他の会員グループとの貴重な意見交換、交流の場となっている。

このほか、地元漁協婦人部との交流も進んでおり、婦人部が主催して行う魚さばき方教室や漁村加工に使用する魚を青年部が提供したり、時には講師になったりもしている。また加工された製品については、地元で開催されるイベント等で共同で販売に当たっている。

| 研 修 実 績 |     |                                                                    |  |
|---------|-----|--------------------------------------------------------------------|--|
| 平成7年度   | 2月  | 講 演 会 (大阪魚市・緑川氏)<br>魚の流通について                                       |  |
| 平成8年度   | 9月  | 合同研修会 (漁青連、漁婦連、水産団体)                                               |  |
|         | 10月 | 研修視察 (福岡県、海の中道)<br>水族館用活魚の取り扱いについて                                 |  |
|         | 2月  | 水産技術研修大学 (2日間、27名)<br>漁業気象、流通、鮮度、養殖管理について<br>(気象協会、大都魚類ⅩⅩ、公設市場、水試) |  |
|         | 3月  | 研修視察 (部長ほか2名)<br>宮崎県日南市漁協：市場視察<br>合併問題意見交換                         |  |
| 平成9年度   | 8月  | 研修視察<br>長崎県諫早市：諫早湾干拓事業影響問題<br>漁網製造工場視察                             |  |
|         | 9月  | 合同研修会 (漁青連、漁婦連、水産団体)<br><br>講 演 会 (漁青連、部長ほか2名出席)                   |  |
|         | 11月 | 現地研修会<br>漁青連：甌島、部長出席                                               |  |
|         | 12月 | 役員研修会<br>部長ほか2名出席                                                  |  |
|         |     |                                                                    |  |

#### 5 波及効果

設立4年と日が浅く、他地区への波及効果といったものは取り立ててはないが、町内で開催されるイベントには欠くことの出来ない存在になっていると自負している。

また、私たちが中間育成したマダイ稚魚は、江口漁協から坊津町までの各漁協に配布・放流され、マダイ資源の維持向上に一役買っているのではないかと考えている。

漁青連をとおしての他地区青年部との交流も頻繁になってきている外、今までなかなか話も聞いてくれなかった先輩漁業者達も青壮年部の部活動を通じ一目置かれるようになってきた。

#### 6 今後の計画と問題点

現在の活動の柱は今後も継続していくこととしている。

地域のイベントへの参加については、今までの裏方としてだけではなく、青壮年部独自の手作りのアトラクションをするなど、もっと自分たちが楽しめるような形で参加していきたいと考えている。

女性との交流会については、未婚男性も少なくなっていることから、花嫁対象としてではなく、都会の女性に地域、漁村や漁業の理解を深めて貰う場として、引き続き実施していくこととしている。

財政難の折り、事業規模の後退が云われている栽培漁業については、これからの漁業を支えるものと考えており、さらなる事業の拡大を望んでいる。この場を借り要望を申しておきます。事業の実施にあたっては今まで同様全面的に協力・参加していく覚悟です。

研修事業については、今後の水産のあり方、特に、魚価安傾向に対処するための販路開拓など流通問題や水産加工など付加価値向上対策などについて、また観光漁業への取り組み等について研修してきたいと考えている。

現在、笠沙町漁協には、東京などから1ターンし漁業に従事している部員が4名いる

が、年長部員の退部はあるものの新規加入がほとんどない。私たち青壮年部の活動を通じて、もっと楽しく漁業に従事し、地域で生活することで、漁村に残る青年を増やしていければと考えている。

# 地域に呼びかけ，ともに取り組んで

～ 虹のかけ橋，子供たちへのプレゼント ～

指宿市漁業協同組合婦人部 中村 ミチ子

## 1 地域と漁業の概要

私たちの住む指宿市は薩摩半島南東部に位置し、人口は3万1千人で薩摩富士とも呼ばれる開聞岳に近く、池田湖、砂むし温泉などの観光地として知られ、最近では、ふれあいプラザなのはな館や、指宿菜の花マラソンでも有名である。（図1）

市内には、指宿市と指宿市岩本の2漁協があり、私たちの指宿市漁協は市南部に位置し、正組合員52名、准組合員75名、計127名で、主な漁業種類は一本釣り、建網、延縄、小型定置、養殖、まき網などで、平成9年度の水揚げ量は1,662トン、総水揚げ金額は約10億3千万円である。



図1 指宿市位置図

## 2 組織と運営

指宿市漁協婦人部は、昭和52年10月に発足し、現在部員53名で部長1名、副部長1名、会計1名、監事2名で構成されている。

主な活動内容は、共済、貯蓄推進など漁協事業への参画はもとより、魚食普及や環境保全運動、生活の簡素化にも力を入れている。魚食普及としては、魚料理講習会で小学生の子供たちやその若い母親を対象に、母親には魚のさばき方の指導を、子供たちにはバイキング方式で栄養のバランスを考えた食材の選び方なども学習させたりしている。また、「年間行事計画」「婦人部だより」（年2回）を発行したり、「健康づくりふれあいの集い」として軽いスポーツを行うなど、部員間の交流を大切にしながら活動を展開している。

## 3 活動課題選定の動機

第1は、冠婚葬祭における交際費の簡素化である。昭和60年頃、地域では冠婚葬祭の付き合いが年々派手になり、お通夜に顔を出すだけでもお弁当（1,000～1,500円程度）が届き、それが地区内外を問わず、約100～200個も配布されていた。さらに何十年忌までも弁当の配布が行われ、このままでは家計に支障を来すと常々感じていた。年忌がある度に老人同志が相談し合い、年金の中から2～3千円を支出している姿を見かけることも多かった。このような状況を見るにつけ、私たち漁協婦人部が行っている簡素化運動を地域へ広められないものかと、以前一度、婦人部で地区の公民館長に相談してみたことはあった。そのような中、昭和62年、私は漁協婦人部の監事と地区婦人会会長、地区PTAの役員を同時期に務めることになった。そこで「簡素化運動を進めるのは今しかない、この3つの役を活用し、パイプ役となり広げていこう」と思いたち、行動に踏み切ることにした。

第2は、環境問題の啓発である。環境保全上海の果たしている役割は大きく、海的环境保全は、私たち漁業関係者だけの問題でなく、地域社会においては住民一体となった活動展開が求められる。私たちは、地域活動や市長と語る会など各種団体の会合にはできるだけ参加して、環境保全について話をするようにしていた。

## 4 活動の状況及び成果

### 4-1 簡素化への取り組み

#### (1) 地元（湊北地区）への推進

##### ① 婦人会への働きかけ

私たちの住む湊区は、湊北・湊上・湊中・湊南の4つの地区に分かれ、その中の湊北が私の地区である。地区に各々各種組織（老人会・婦人会・PTA等）がある。（表1）

まず、会長職を務めていた婦人会に働きかけてみた。「やってみたい。でも地区全体で取り組まなければうまくいかないだろう。特に老人の方々の賛同が何より必要である。賛同が得られるだろうか」との意見が出された。PTAの役員会でも同様であった。

老人の方々への働きかけには仲介役が必要と思い、厚い信望を寄せられていた公民館長にお願いすることにした。館長は婦人会やPTAの役員会に顔を出し、簡素化については聞いており、前向きな考えを持っておられた。

##### ② 老人会への働きかけ

館長より、老人会の総会で話す機会をいただいた。昔からの地域のしきたりを守り継承してこられた老人会の方々に意見することは、勇気のいることであった。理解してもらえるかどうか不安で震えを押さえながら、「みなさんは、裕福な生活をなさっているでしょうが、中には年金生活を強いられている方もいらっしゃると思います。若ければ働けるけど、老いてからは働いて交際費をひねり出すことは難しいですね。決して交際をないがしろにしているのではなく、大いにしましょう。ふれあいを大切に、長くお付き合いを続けるための簡素化です。そのためには、無理、無駄のないものにしていかなければならないのではないのでしょうか。後に続く子供や孫のため、今勇気を持ってこの簡素化運動に踏み切りましょう。」と尊敬と優しさを心がけて説得した。

忍耐強く働きかけなければならないと思っていたが、熱意が伝わったのか、自分たちも日頃見直さなければと思っていたのだろうか「どこかで実績があるのか」「お返しはいくらにすればよいのか」などの質問が出た。具体的に漁協婦人部の取り組み状況を説明したところ、言いようのない沈黙の後、「やってみようか」という返事が返ってきたのである。このときの感激は今でも忘れられない。老人会の賛同を得たこともあり、館長の音頭のもと地区全体で実践することになった。

#### (2) 地域（湊区）への推進

事はトントン拍子に進み、館長が「これは湊区全体に広げていこう」と湊区内の全館長に呼びかけてくださり、湊区全体の総会へ招かれ協力をお願いしたところ、湊区全体で取り組むこととなった。実践内容については各団体に任された。しかし、なかなか変化の兆しが見えず、あまり従来と変わらなかった。お通夜においては、千円程度のお菓子を持参する人がおり、それに対して弁当が配られた。そのため、500円程度としてみたがそれでも配られるといった状態であった。

関係者の間に「気運が盛り上がっているこの時期を逃せば元に戻ってしまう。進めるのは今しかない！」という気迫が感じられた。再度、館長、老人会などで協議し、「何か持っていくからお返しがあるんだ、何も持たず真心の込めった言葉を持っていこう」と手ぶらで行くことが決まった。その後、漁協婦人部の実践内容（図2）を参考にし、見舞い千円、香典千円で、お返しは「一切無し」などが盛り込まれた「湊区民運動推進実践事項」（図3）を取り決め、地域全体へ配布した。

この反響は大きく、地域のいろいろな方から家庭で話題に上るということをよく耳にした。ただ、いざ決めても実行することは容易ではない。まもなく、湊区の役員の身内の方が亡くなられた。「役員がしないで誰がするのか」と簡素化（弁当配布や香典のお返しは無し）での葬式を行った。うまく進むかはスタート時が肝心であるが、最初に実行するこ

とはとても勇気のいることであり、地域のリーダー自らが実践してくれたことに感謝すると共に大きな励みとなった。

漁協婦人部が進めている運動であり、取り決めが守られるよう婦人部員が積極的に取り組んだ。葬儀が行われる時には、簡素化を勧めたり、お返し廃止のし袋（県漁婦連の活動）の利用を推進した。また、地域内の人からいただいたお返しを返しにいくこともあった。

実践当初は多くの方々が「法事は、どのように線引きすればよいのか」などの相談にいられた。それに対して的確な回答をすることは難しく、「親戚関係は別とし、故人の付き合いによって違うので、生前故人がお世話になった方を故人の立場に立って線引きをしたらどうか」とアドバイスした。

#### 4-2 環境問題の啓発

“廃油による石けん作り”は、地域住民や他団体に対しても呼びかけ、作り方の指導や配布を行った。好評を得てスポーツ少年団の親から「頑固な汚れが落ちる」とか、近所の方からも「今度作る時は教えて」などと声がかかるようになり、少しずつ石けん普及の輪が広がっていった。何度も実習を重ねるうちに、漁協も婦人部の活動に対してさらに理解を深めてくれ、市から漁協へ「一般市民に対して何か貢献しているものはないか」との問い合わせがあった際、婦人部の“廃油による石けん作り”を推薦してくれた。漁協からの後押しもあり、平成6年より、市の生涯学習講座（表2）で、年1回一般市民を対象に石けん作りの指導と配布を行っている。

また、漁協周辺のゴミ箱設置の提案も行った。近年、漁協周辺が整備され近くに太平洋公園もでき、市民の憩いの場となったため、弁当箱や缶などの入ったビニール袋が草木の横などに捨てられていることが多くなった。捨てられたゴミは犬や猫に食い荒され、空き缶は放置され、風で海にとばされたビニール袋などは船のスクルーに巻き込まれて故障の原因になることもあった。“ゴミは持ち帰りましょう”との看板や我々が行う年3回の清掃ではとても対応できない状況であったため、市の方で太平洋公園にゴミ箱を設置し、ゴミを回収してくれないものかと思っていた。

平成8年3月、「市長と語る会」の中で、ゴミ箱の設置を提案した。「公園の管轄が、県もしくは市のどちらかという問題があるでしょうが、どちらにせよ公園を利用するのは指宿市民ではないでしょうか」と発言したところ、市長より、「早速持ち帰って検討してみる」という快い回答であった。その後、「ゴミ箱を置くと景観が損なわれる」とか、「誰が回収するのか」などの意見も交わされたらしいが、6月には市がゴミ箱を設置（5～6個）し、回収については地域老人会へ助成し、委託された。毎朝のゲートボールの練習の後に回収するなど現在も継続され、周辺に捨てられるゴミはかなり少なくなってきた。

### 5 波及効果

簡素化運動は地道な活動であり、定着するまで部員一丸となって取り組んだ。自分たちの小さな活動が地域へ貢献できたことで、部員の団結も強くなっていった。

このような運動の実績や成果は見えにくいですが、完全とまではいかないまでも、以前のような派手さはほとんどなくなり、みんなの心の中にも“派手にはしない”というのが浸透してきた。それは私自身も実感している。やむを得ない事情もあり、決められた金額を守ることは難しいという現実もある。ただ派手にしないという精神を忘れず、できるだけその金額を維持することが大切である。最近では、地域に嫁いだ女性が、地域の習慣について助言を求めてくることもあり、若い主婦とのよい交流の機会となっている。

環境保全運動を続けるうち、平成8年、生活改善グループより指宿地区生活改善グループ活動交換会の中で「漁家による海を守る生活環境づくり」について発表して欲しいとの

依頼があった。地域への運動展開の絶好のチャンスと思い、森と海のつながり、廃油石けん作り、ビデオ放映による合成洗剤の怖さなどについて述べ、海を取り巻く環境全体での保全運動の大切さについて訴えた。皆、真剣に聞いてくれ、とてもよい反応だった。

また、平成9年、揖宿市郡生活改善グループの総会での発表依頼があった。身近な問題を取り上げ「今私たちにできることは」として発表した。その後、出席していたグループより“廃油による石けん作り”を学びたいとのことで、実習を行った。また、総会に出席していた県生活改良専門技術員が、他の地域（甌島）のグループが探していた実践事例として、私たちの取り組みを推薦してくれた。そのグループが訪問し、“自然にやさしい環境づくり”をテーマに各家庭からの廃油処理などについて意見交換し、交流を深めた。

## 6. 今後の計画と問題点

めまぐるしく変化する社会経済情勢や生活環境の中、慶弔費の見直しを検討する時期にきていると思う。ただ、運動を始める前のように派手にならないよう漁協婦人部が歯止め役となり、一層運動の輪を広げていきたい。

設置されたゴミ箱についてはゴミ分別までしてもらえるように働きかけていきたい。海は決して漁業者だけのものではなく、みんなのものである。きれいな海は子孫への財産であり、そのことを一人でも多く理解してもらえよう環境問題の啓発を続けていきたい。

活動を地域へと展開するとき、何よりも大切なのは、日頃からの地域とのふれあいである。日常の付き合いがあるからこそ、理解、協力がもらえる。これからも地域との関わりを大切にし、地域に根ざした活動为目标に取り組んでいきたい。

私たち婦人部員一人ひとりの活動の源は、家族が心身共に健康なことである。今朝も海の男たちを乗せて船は出航した。私たち女性は、無事を祈りながら見送り、笑顔で「お帰りなさい」と迎えられるよう、家族を守りながら海と陸との絆の歯車をしっかりと回し続けるよう努力している。

表1 地区別世帯数及び各組織

|        | 地区 | 世 帯 数 |       | 地 区 内 各 組 織          |
|--------|----|-------|-------|----------------------|
|        |    | 平成元年  | 平成10年 |                      |
| 湊<br>区 | 北  | 1 4 3 | 1 1 5 | 公民館, P T A, 老人会, 婦人会 |
|        | 上  | 2 8 0 | 1 6 5 | 〃                    |
|        | 中  | 1 3 8 | 9 3   | 〃                    |
|        | 南  | 1 5 9 | 1 3 0 | 〃                    |
|        | 計  | 7 2 0 | 5 0 3 |                      |

漁協婦人部の皆様生活簡素化に  
努めましょう

お見舞 一戸円  
香典 一戸円  
お通夜 五百円(菓子代として現金にする  
年忌は身内だけにして、決して品物を  
配らない事  
見舞や葬式のべんとうのお返しは絶対に  
しない事

昭和三十二年三月二十四日

以上がきまりましたので固く守って下さい

図2 漁協婦人部実践内容

湊区民運動推進実践事項

1. 見舞をすて、勇気を出して、簡素化に努めましょう。
2. 葬儀の花輪は自粛しましょう。
3. 病氣見舞のお返しは、ハガキで挨拶をすませましょう。

|         |              |
|---------|--------------|
| 結 婚 祝   | 10,000円以内    |
| 病 氣 見 舞 | 1,000円程度     |
| 香 典     | 1,000円 お返しなし |

お通夜の野菜代なし。舟遊を配らない。年忌のお菓子は配らない。

昭和63年7月1日

湊 区 公 民 館  
〃 老 人 会  
〃 婦 人 会  
〃 青 年 会  
〃 P T A

図3 湊区民運動推進実践事項

表2 市の生涯学習講座

| 生涯学習情報                                             |            |                     |             |       |       |       |
|----------------------------------------------------|------------|---------------------|-------------|-------|-------|-------|
| (平成9年度前期：4月～9月)                                    |            |                     |             |       |       |       |
| あなたも参加<br>しませんか！                                   |            |                     |             |       |       |       |
| 【4月】                                               |            |                     |             |       |       |       |
| ※ お問い合わせは、生涯学習情報センター（市考古博物館内：23～5200）か、主催者にお尋ね下さい。 |            |                     |             |       |       |       |
| 日 時                                                | 事業名        | 事業内容                | 時 間         | 会 場   | 主 催   | 対 象   |
| 12 土                                               | 美 術 講 座    | ビジュアル・デザインと風情画講座    | 14:30～15:00 | 岩崎美術館 | 岩崎美術館 | 小中高一般 |
| 21 日                                               | ビデオアニメ館    | ビデオアニメの上映           | 14:00～15:00 | 市立図書館 | 市立図書館 | 観・聴・読 |
| 29 火                                               | CoCCo名画鑑賞会 | 『ワイルド・ベンチ』上映会（140分） | 9:00～12:00  | 市立図書館 | 社会教育課 | 一般市民  |
| 29 火                                               | CoCCo名画鑑賞会 | 『ワイルド・ベンチ』上映会（140分） | 19:00～21:00 | 市立図書館 | 社会教育課 | 一般市民  |
| 5月3日                                               | 絵巻月夜二部     | 絵巻月夜二部（140分）        | 9:00～12:00  | 岩崎美術館 | 岩崎美術館 | 小中高一般 |
| 29 日                                               | CoCCo名画鑑賞会 | 『ワイルド・ベンチ』上映会（140分） | 9:00～12:00  | 市立図書館 | 社会教育課 | 一般市民  |
| 中 旬                                                | 絵巻月夜二部     | 絵巻月夜二部（140分）        | 9:00～12:00  | 岩崎美術館 | 岩崎美術館 | 小中高一般 |
| 【5月】                                               |            |                     |             |       |       |       |
| 3 土                                                | CoCCo名画鑑賞会 | 『ワイルド・ベンチ』上映会（140分） | 19:00～21:00 | 市立図書館 | 社会教育課 | 一般市民  |
| 3 土                                                | CoCCo名画鑑賞会 | 『ワイルド・ベンチ』上映会（140分） | 19:00～21:00 | 市立図書館 | 社会教育課 | 一般市民  |
| 4 日                                                | CoCCo名画鑑賞会 | 『ワイルド・ベンチ』上映会（140分） | 19:00～21:00 | 市立図書館 | 社会教育課 | 一般市民  |
| 4 日                                                | CoCCo名画鑑賞会 | 『ワイルド・ベンチ』上映会（140分） | 19:00～21:00 | 市立図書館 | 社会教育課 | 一般市民  |

| 月   | 事業名      | 事業内容        | 時 間         |
|-----|----------|-------------|-------------|
| 7 月 | 天然石けんづくり | 廃油による石けんづくり | 10:00～12:00 |

| 会 場    | 主 催     | 対 象  |
|--------|---------|------|
| 漁村センター | 市漁業協同組合 | 一般市民 |

|         |             |                         |             |        |        |      |
|---------|-------------|-------------------------|-------------|--------|--------|------|
| 3月～     | テニス教室       | テニス（18, 19, 17日, 24日）   | 14:00～16:00 | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民 |
| 11月～    | ターゲットバードゴルフ | ターゲットバードゴルフ             | 19:30～21:30 | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民 |
| 10月～    | テニスマスターズ    | テニスマスターズ（18日, 19日, 24日） | 9:00～11:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民 |
| 20, 21日 | テニスマスターズ    | テニスマスターズ（18日, 19日, 24日） |             | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民 |
| 7 月     | ふるさとを学ぶ学習大会 | 教育・経済等に対する学習            | 9:00～16:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民 |
| 7 月     | ふるさとを学ぶ学習大会 | 教育・経済等に対する学習            | 9:00～16:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民 |
| 7 月     | ふるさとを学ぶ学習大会 | 教育・経済等に対する学習            | 9:00～16:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民 |

| 【8月】 |            |                 |             |        |        |       |
|------|------------|-----------------|-------------|--------|--------|-------|
| 3 日  | いぶきせしるべ    | いぶきせしるべ（17日）    | 9:00～17:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民  |
| 13 水 | 中高生ふるさとづくり | 中高生ふるさとづくり（17日） | 9:00～17:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 小中高生  |
| 17 日 | 地区運動会      | 地区民の健康と交流づくり    | 8:30～16:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民  |
| 17 日 | 地区ソフトボール大会 | ソフトボール大会（17日）   | 8:30～16:00  | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民  |
| 23 土 | 考古学セミナー    | 考古学を中心とした講座     | 15:00～18:00 | 市総合体育館 | 市総合体育館 | 一般市民  |
| 24 日 | ビデオアニメ館    | ビデオアニメの上映       | 14:00～15:00 | 市立図書館  | 市立図書館  | 観・聴・読 |
| 25 月 | 見聞録風土名付け会  | 見聞録風土名付け会       | 9:00～16:00  | 市立図書館  | 市立図書館  | 小中高一般 |



# 「よみがえれ！ 甑のアワビⅡ」

～上甑村漁業協同組合青壮年部の取り組み～

上甑村漁業協同組合 濱田 史郎

## 1 地域と漁業の概要

甑島は薩摩半島の西方，東シナ海に浮かぶ3つの有人の島（上甑島，中甑島，下甑島）といくつかの無人島で構成され，4つの村がある。その中で，上甑村は上甑島の分水嶺から西側と中甑島に位置している（図1）。

村の海岸線は北東部に景勝地である「ながめの浜」を控え，北西岸は入り江の少ない切り立った断崖と荒々しい岩礁地帯，転石帯に取り囲まれて磯魚やアワビの好漁場を形成し，南西岸は入り江に恵まれ良港が多く漁船漁業が盛んに行われている。内陸部はほとんどが山間傾斜地で，耕作に適した平坦地は少ない。

人口は二千二百人ほどであり，7つの集落で形成されている。村の中心部である中甑には国や県の出先機関が集まり，甑島の行政と商業の中心地でもある。

村の産業構造は従事者数で見ると，第1次産業が26パーセント（漁業は20パーセント），第2次産業は22パーセント（建設業は19パーセント），第3次産業は52パーセント（サービス業は25パーセント）であり，漁業の比重は大きい。

村の海岸線の大部分を切り立った断崖と荒々しい岩礁地帯，転石帯に取り囲まれていることから好漁場に恵まれ，キビナゴ刺網や定置網，一本釣り，アワビ採捕等の漁船漁業が盛んに行われている（図2）。

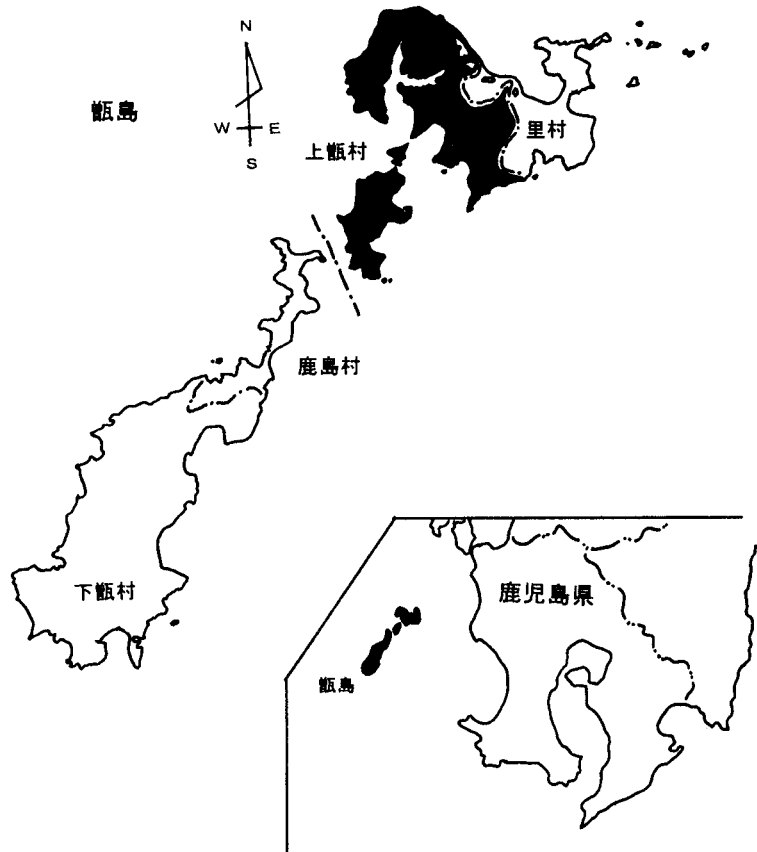


図1 甑島と上甑村の位置

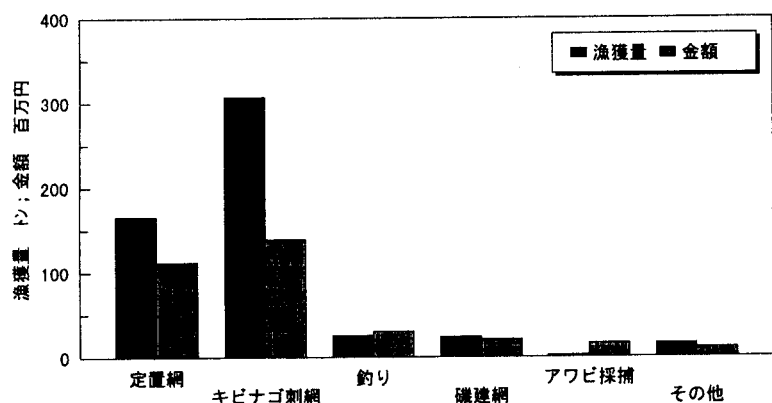


図2 上甑村の漁業種類別水揚げ状況（平成9年度）  
但し，巻き網漁業を除く

## 2 漁協青壮年部の概要

私の所属する上甌村漁業協同組合青壮年部は、漁協の正式な組織として平成9年12月13日に正式に発足した。上甌村漁協は平成8年1月1日に上甌村内の浦内、上甌、平良の三つの漁協が合併してできたばかりの漁協であり、これまで正式な青年部組織は無かった。

漁協が合併したばかりの頃は、若手漁業者の間にも旧漁協の見えない壁のような互いに敬遠し合う雰囲気が残っていて、意志の疎通が充分とは言えない状況だった。

そんな中で、漁協が合併したのを機に、青年部組織を新たに結成しようとする動きが見られ、1年間かけて組織作りを進めてきた。

丁度、県の新技術実証試験で「アワビの海面採苗」の取り組みを上甌村で実施することになり、この事業に若手中堅漁業者が中心になって取り組み、共通の課題と作業をとおして互いの融和と青壮年部の組織づくりが図られた。

今回、私は青壮年部をまとめるきっかけになった「アワビの海面採苗」の取り組みを、昨年「よみがえれ！甌のアワビ」と題してアワビの中間育成について報告した鹿島村漁業協同組合青年部の小村茂氏に続いて報告する。

## 3 アワビ漁業の現状と種苗放流

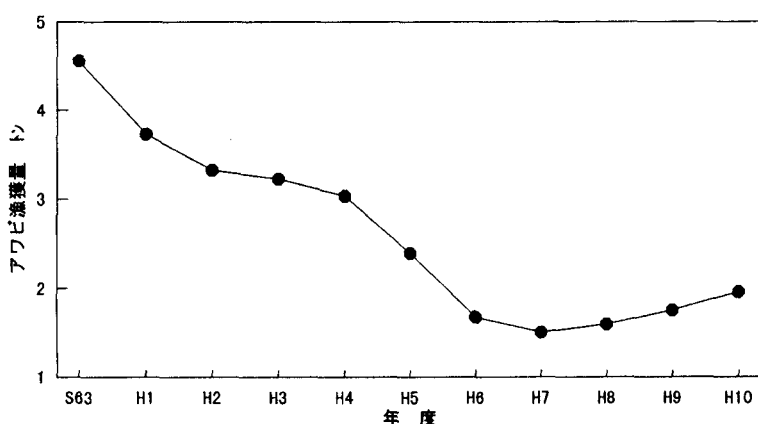


図3 上甌村のアワビ漁獲量の経年変化

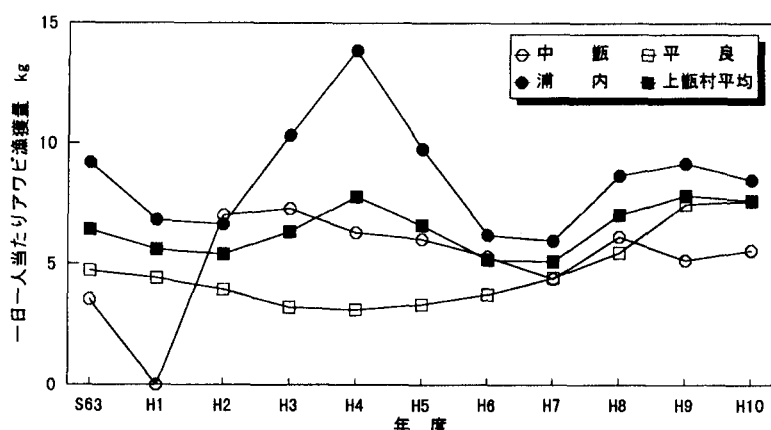


図4 一日一人当たりアワビ漁獲量の経年変化（上甌村）

甌島におけるクロアワビ資源は、古来から干しアワビが甌明鮑として大陸方面との貿易で重要な位置にあったこと、近年ではその価格が高価であり短期間にまとまった収入が得られることや漁船漁業の漁獲対象種が少ない9月が漁期であること等の理由から、甌島の漁業関係者の関心は高く、キビナゴとともに甌島を象徴する資源である。

さて、関心の高さは獲り過ぎに繋がり、図3に示すように昭和63年には上甌村だけで4.5トンあったアワビの漁獲量は年々減少し、平成6年には1.6トン前後に落ち込んだ。

また、総漁獲量ばかりでなく一日一人当たりの漁獲量も、図4に示すように平成6、7年に落ち込み、資源状態が急激に悪化した。

素潜りでのアワビ採りはきわめて重労働であり、資源が低水準のままだと、「短期間にまとまった収入が得られる」という魅力が半減し、操業意欲が減退

してしまうことになる。その結果、図5に示すように年々操業者数が減少し、上甌村のアワビ漁業の衰退が懸念される状況になってきた。

一方、上甌村では漁業者の要望を受けて村が種苗放流事業を実施してきており、表1に

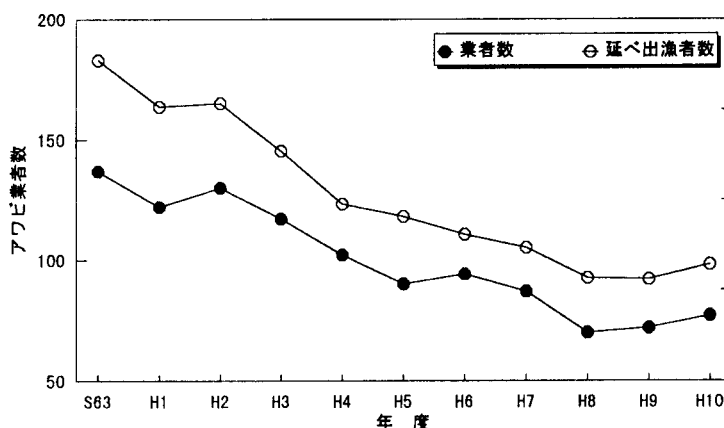


図5 アワビ操業者数の経年変化（上甌村）

示すように近年その効果が現れてきた。併せて、漁業者も資源管理の取り組み（表2）を進め、図3、4に示すように平成8年度以降、資源が復活する兆しが見えてきた。

このように、種苗放流と資源管理によりアワビ資源の若干の回復傾向が見られた事実は、今以上の種苗放流を行うことにより過去の資源レベルまで復活させることが可能であることを示唆している。

表1 上甌村における放流アワビの回収状況

|        | 平成6年度     | 平成7年度     | 平成8年度     | 平成9年度     |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 混獲率    | 0～14.3%   | 0～30.8%   | 1.8～28.3% | 1.3～24.7% |
| 平均混獲率  | 6.1%      | 9.3%      | 15.5%     | 13.2%     |
| 推定回収量  | 101.5kg   | 140.3kg   | 247.6kg   | 231.5kg   |
| 推定回収金額 | 1,117.5千円 | 1,181.4千円 | 2,180.9千円 | 2,057.6千円 |

表2 甌島地区アワビ共販会議申し合わせ事項

|         |                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------|
| 操業期間の制限 | 9～10月の大潮を中心とした20日間に限定                                      |
| 操業日数の制限 | 上記期間内に10日以内に限定                                             |
| 漁獲量の制限  | 資源維持および価格維持のため、採捕前に地区毎に漁獲予定数量を決め、その数量を達成すれば操業日数が残っていても終漁する |
| 漁具の制限   | 一部の地域を除いて、潜水器の使用を禁止                                        |
| 密漁の監視   | アワビ採捕業者が交代で密漁監視の巡回を行う                                      |

ところが、種苗生産機関からのクロアワビ種苗の入手は不安定であり、購入単価も安いとはいえず、表3に示すように、村が実施した放流事業においても満足な数量の放流が困難な状況にあり、放流規模の拡大は不安定な要因を含んでいる。

こうしたことから、アワビ種苗をもっと安く、もっと大量に手に入れることが重要な課題となっており、種苗の自主生産の試みへとつながっていった。

表 3 放流用アワビ種苗の入手実績

|           | 平 3    | 平 4    | 平 5    | 平 6    | 平 7    | 平 8    | 平 9    |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 要望数量(個)   | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 |
| 入手実績(個)   | 12,000 | 11,000 | 45,500 | 35,100 | 27,500 | 29,000 | 20,000 |
| 入手サイズ(mm) | 10     | 14～18  | 10～23  | 11～25  | 20     | 30     | 30     |
| 単価(円/個)   | 10     | 41～55  | 10～69  | 25～60  | 20～60  | 30     | 45     |

#### 4 活動の状況と成果

##### (1) アワビ種苗生産の研修

平成8年10月に長崎県上五島町栽培漁業センターで、「クロアワビ稚貝の海面採苗と海面飼育技術」を研修した(写真1)。

その技術はアワビの種苗生産の過程の内、受精卵から5カ月後の稚貝期までの間を海面に浮かべた生け簀の中で、人手をかけずに育成する技術であり、人件費や電気代等がほとんどいらず、安価な種苗を生産できる利点を有す。さらに、こうした粗放的な種苗生産方法は初期浮遊期幼生から稚貝に至るまでの生残率が低く大量生産には向かないものの、生き残った稚貝は丈夫で良質な種苗であり、その後の中間育成時のへい死が少ないことも利点として挙げられる。



写真1  
上五島町栽培漁業  
センターで研修

また、同年11月には、青年グループの視察研修で阿久根市栽培漁業センターと鹿児島大

学水産実験所に行った。ここでは、内湾域の水質浄化を目的にアナアオサを用いた実験とアナアオサを餌料としたアワビの養殖実験を行っており、水槽内で比較的簡単に増えるアナアオサはアワビの中間育成餌料として有効と考えられた。

さらに12月には阿久根市栽培漁業センターでアワビの採卵・受精の実技研修を受け、平成9年度に実施するアワビの種苗生産試験の準備を進めた。

最終的には、平成9年12月にアワビの種苗生産試験の主力メンバー8名が阿久根市栽培漁業センターにおいてアワビの採卵・受精の実習を行った。

## (2) アワビ種苗生産の取り組み

### ①産卵親貝の養成

試験に供した親アワビ（雄24個と雌37個）は、平成9年10月13日に潜水して採取し、雌雄別にコンテナカゴに収容・飼育した。

飼育は漁協職員と青年グループのメンバーが交代であたり、平成9年10月13日から採卵予定の12月中旬の2ヶ月間行った。飼育水槽は自然産卵を避けるため雌雄別とし、雌は漁協本所の活魚水槽で、雄は中甕支所の活魚水槽で飼育しアナアオサを中心に塩蔵ワカメを餌料として与えた。

### ②資材の準備

資材は県の新技術実証試験事業で購入したもののほか、漁協の古いイケス用イカダや青壮年部員の所有する古いモジ網を借用したり、紫外線照射海水製造器を自作する等してコストの削減に努めた。作業には青壮年部員が仕事の合間を見て集まり、全員で準備した。

（写真2）



写真2

青壮年部員全員でコレクター枠を作成

### ③採卵・受精

親アワビの成熟度の判定は生殖腺の目視観察により行った。採卵可能かどうかの基準は雌雄の生殖腺が殻からはみ出しているか否かで判断した。その結果、採卵予定の12月中旬では全ての親アワビの生殖腺は未発達で、採卵は不可能と判断され1月中旬以降に試験を

延期した。

1月中旬時点での親アワビの成熟状況は依然低調で試験実施が危ぶまれたが、阿久根市栽培漁業センターの好意により同センターから生殖腺の発達した親アワビ（雌10個、雄5個）を1月26日に借用し、採卵試験を3回実施した。その概要を表4に示す。

採卵試験では青壮年部員が2班に分かれ、採卵作業に6名、海面イケス4面とコレクター16個を用意する受精卵の収容班に10名が参加した。（写真3、4）



写真3  
漁協水揚場の片隅  
にこしらえた採卵  
設備  
コンパネの箱は自  
作の紫外線照射海  
水製造器

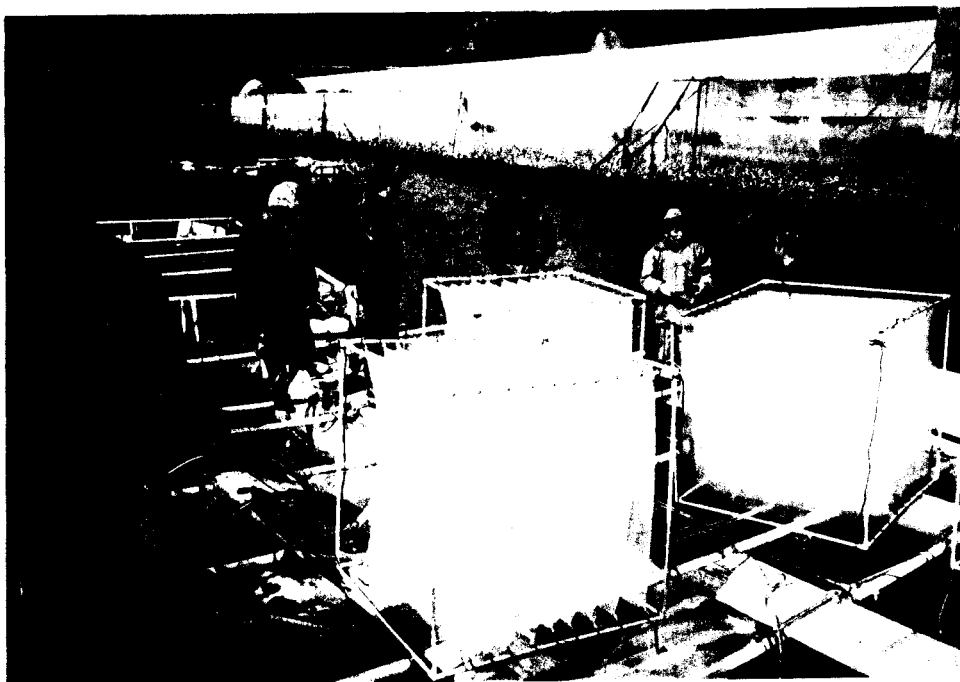


写真4  
準備の整った海面  
採苗イケス

早朝からの作業を3日行ったが、皆熱心に参加してくれた。産卵を待つ時間は結構長く、まるで出産に立ち会う父親の気持ちを味わった。

3回目の採卵は、公務出張の普及員を除く青壮年部員と漁協職員だけで行った。設備も

経験も充分でないにしては、結果は良好で約20万粒の受精卵が採取できた。

表 4 採卵・授精試験の概要

|         | 第 1 回目の採卵試験                                                                                                                                                             | 第 2 回目の採卵試験                                                                                                                                                                  | 第 3 回目の採卵試験                                                                                                                       |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実 施 日   | 平成10年 1 月29日                                                                                                                                                            | 平成10年 1 月30日                                                                                                                                                                 | 平成10年 2 月 2 日                                                                                                                     |
| 時 間     | 午前 8 時～午後 4 時                                                                                                                                                           | 午前 6 時～午後 5 時                                                                                                                                                                | 午後 1 時～午後 7 時                                                                                                                     |
| 天気・気温   | 曇のち晴・ 8℃                                                                                                                                                                | 晴 ・ 6℃                                                                                                                                                                       | 晴 ・ 13℃                                                                                                                           |
| 濾 過 水 温 | 11℃                                                                                                                                                                     | 11℃                                                                                                                                                                          | 15℃                                                                                                                               |
| UV海水作成  | 08:45～                                                                                                                                                                  | 06:00～                                                                                                                                                                       | 13:30～                                                                                                                            |
| 試供親アワビ  | 雌 8 個, 雄 5 個                                                                                                                                                            | 雌 9 個, 雄 5 個                                                                                                                                                                 | 雌 6 個, 雄 5 個                                                                                                                      |
| 親アワビ 干出 | 10:00～11:15                                                                                                                                                             | 08:50～10:20                                                                                                                                                                  | 14:30～15:30                                                                                                                       |
| UV海水浸漬  | 11:20～                                                                                                                                                                  | 10:20～                                                                                                                                                                       | 15:30～                                                                                                                            |
| 放 精 開 始 | 13時頃 1 個                                                                                                                                                                | 14:20頃 1 個                                                                                                                                                                   | 放精なし 2 個切開                                                                                                                        |
| 産 卵 開 始 | 16時過ぎ 1 個                                                                                                                                                               | 17時頃 1 個 数百粒                                                                                                                                                                 | 16時頃 2 個 20万粒                                                                                                                     |
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生殖腺の成熟度の進んだ雌が少ない。</li> <li>・ 曇のため干出がうまくいかなかった。</li> <li>・ 1 個体だけ産卵誘発の刺激により生殖腺の肥大が著しかった</li> <li>・ 上の雌が手の中で産卵してしまった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 13:50から水温刺激加温濾過海水を注入し, 11℃のUV海水を13～14.5℃に上昇</li> <li>・ 1 水槽は同時に日光刺激も与えた。14:50～15:30</li> <li>・ 別の水槽では15:10から日光刺激と精子刺激を併用</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去 2 回の採卵試験で行った産卵誘発の刺激が影響したためか, 雌の生殖腺の肥大が著しい。</li> <li>・ 水温の上昇も影響しているのかもしれない。</li> </ul> |

#### ④海面採苗

前述のとおり、海面採苗試験を実施するための十分な数量のアワビ受精卵を自家採卵することはできなかったが、3月上旬に再びアワビの種苗生産を実施する阿久根市栽培漁業センターの好意により同センターから受精卵の提供を受け、海面採苗試験に取り組んだ。

3月2日、阿久根市栽培漁業センターで採卵手法の再講習を受け、夕刻漁船で480万粒の受精卵を甑島まで搬送した。

一方、1月末に用意していた海面イケスタンクとコレクターは破損し汚れも著しかった

ため、急遽青壮年部員4名が新たに1面用意した。

1週間後にはコレクターに付着した匍匐期幼生が確認できたが、6月の回収時にはアワビ稚貝は見られず、モジ網の破れから侵入したと思われる5～7cmのメジナ数十尾と20cm前後のウマヅラハギ6～7尾、数百尾は居るかと思われたイソスジエビがイケス内に散見された。アワビの稚貝はこれらの害敵の食害に遭ったものと思われた。

## 5 波及効果

これまでアワビに関しては「ただ獲るだけ」のものであったり、放流についても「役場が買ってくれた種苗を放流するだけ」といった意識の若手漁業者が多かったが、この事業を通して種苗放流事業と資源管理に対して一層関心が高まった。

また、種苗生産は思ったほど難しいものではなく、自分たちでもやれば出来るという自信を部員の胸に植え付けた。

この事業に関連した一連の視察研修と共同作業は、漁協が合併したばかりでまだ若手漁業者の間にも残っていた互いに敬遠し合う雰囲気を取り払い、青壮年部結成に大きく貢献した。

さらに、青壮年部員以外の漁業者にとってもアワビに対する関心は高く、この事業を通して、そうした漁業者達からも青壮年部への信頼と期待が寄せられるとともにアワビの資源管理意識も高まり、ウニ駆除等の奉仕作業にもこれまで以上の参加があった。

## 6 今後の課題

今後も「自分たちが必要としている数量の種苗ぐらいい自分たちで作る」ことを基本にアワビ種苗の低コスト生産を研究していくとともに、放流したアワビの生育環境を保全するための活動を青壮年部が中心になって推進していく必要がある。

この種苗生産の試みが軌道に乗った場合、8mm前後のアワビ種苗を20万粒ぐらいい作るとは可能と思われる（研修先の上五島では同規模の海面イカダで10～30万粒生産）が、上甕村の中間育成施設ではせいぜい2～3万粒程度の受け入れしかできない。ところが鹿島村はアワビの中間育成では施設も技術も進んでいるので、この試みが成功し、8～10mmサイズの種苗が大量に生産できる体制を整えば互いに協力して、種苗生産を上甕村で、中間育成を鹿島村で行う分業体制が考えられる。輸送コストやその他の経費を押さえることができ、安価で良質な種苗を大量に各村に供給できる体制としてその利点は大きい。

また、アワビを増やすためには餌になる藻場の造成と生息する（隠れる）場が欠かせない。青壮年部としては植食動物の駆除やホンダワラ等の移植、ワカメ種糸の展開、芽株投入等出来ることは積極的に取り組んでいきたい。しかし、山石の投入、アワビ礁の設置による藻場やアワビ漁場の造成、拡大については自分たちの力だけではできないが、こうした事業は今後とも必要であり、県・村の支援は欠かせない。甕島において藻場造成・漁場造成の事業展開を県・村にお願いして私の報告とする。



# ゆとりある漁業経営を目指して

～次世代に夢を与えるための挑戦～

内之浦町漁業協同組合 小型船主会 飯山 朋弘

## 1 地域の概要

私の住んでいる内之浦町は、人口5,700人の比較的小さな町で大隅半島の南東部に位置し、町の背後には国見山脈が北東から南西に走り、山岳が重なり合っている平地の少ないところです。

町の特産品としてはポンカンが有名であり、また“ロケットの町”，“磯釣りのメッカ”として内外に知られる，観光客の絶えない町でもあります。町の北東部には内之浦湾を有し，黒潮が流れる太平洋と恵まれた大自然の中で農林業を始め，豊饒な海の幸という資源を基に漁業の町として発展してきました。（図1）

町内には，内之浦町漁協，岸良漁協，船間漁協の3つの漁協があり，その中の私の所属する内之浦町漁協は，正組合員数178名，准組合員17名の計195名からなり，年齢層は働き盛りの40～50歳代がその半分を占めていますが，10～30歳代も20%を占め比較的若い世代の着業者が多い組合であります。青年部活動も活発で，ぶえん祭，銀河マラソン等の各種イベントにおける魚食普及活動や県漁青連活動にも積極的に参加しております。

漁協の平成9年度の水揚げ数量は4,400トン，水揚げ金額は約17億円（図3，図4，ただし他港水揚げは除く）。主な漁業種類としては，定置網漁業，魚類養殖業，まき網漁業等が営まれております。

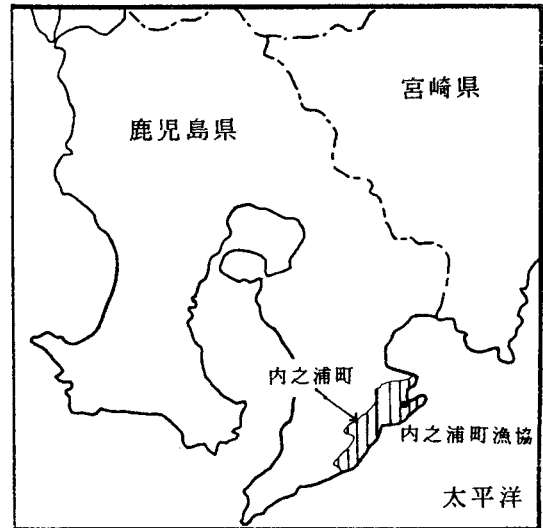


図1 位置図

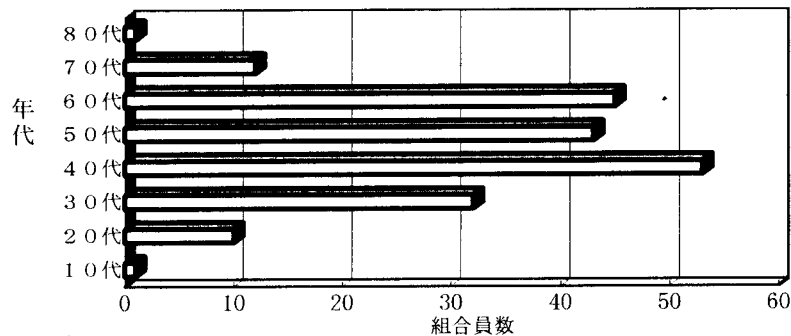


図2 組合員の年齢別構成 (人)

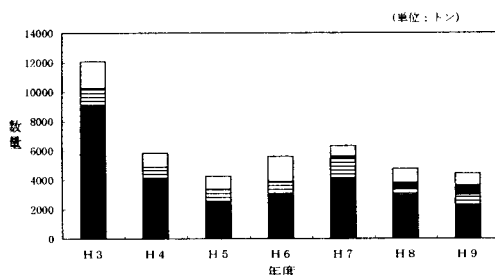


図3 主な漁業種別水揚げ数量割合

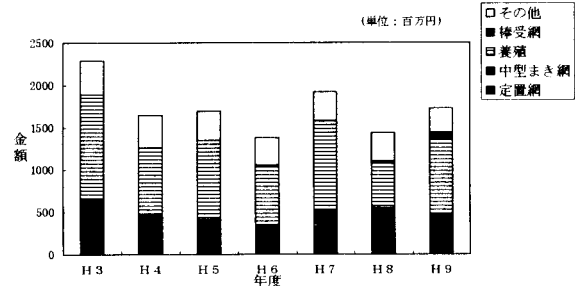


図4 主な漁業種別水揚げ金額割合

## 2 漁師への第1歩

私の両親は共に内之浦の育ちであり、父が漁業を営み、私も中学生まで内之浦で暮らしておりました。しかしながら、大工を志していた私は、昭和57年中学卒業と同時に、郷里を離れ1年間建築系の専門学校に通い卒業後、大工の見習いとして建築会社に入社しました。しかしながら、就職先の会社の経営が芳しくなく、半年で離職の憂き目にあい、昭和59年に内之浦にUターンすることになりました。帰郷後は、定置網・まき網漁船の従業員として3年間就労し、1年間のブランクを経て、昭和63年に父親の漁船の乗子として乗り組み、漁師への第1歩を踏み出しました。今にして思うと育った環境のせいか何の抵抗もなくすんなり漁業に取り組めた気がします。5年間父親の元でイセエビ漁、モジャコ採捕、磯建網漁業について指南を受け、漁業操業に対しある程度の自信を持った私は、漁業近代化資金を借り受けて平成4年に晴れて6.6トンの新船を建造、父も自身の船を手放して共に操業してもらえることとなり、本格的に独立した漁家経営を行うようになりました。

## 3 棒受け網導入の動機

独立した当初は、主に父親から習ったモジャコ採捕、イセエビ漁、アラ延縄漁業を組み合わせる操業をしておりましたが、どれも1年を通しての中核的な漁業とはならず、特に種子島、屋久島方面において操業していたアラ延縄漁業は、比較的好漁でしたが、漁期が1月～3月と海が最も時化する時期であるため出漁日数がかなり制限されるなど、先が読めない漁業でもあり、絶えず生活に不安がつきまといっていました。そのような中、平成6年に操業していた1統の棒受網漁船が沖合でウルメイワシを中心に好成績を上げていたのを知り、強い魅力を感じた私は父と相談した結果、操業に取り組むことになりました。

内之浦町においては、昭和47年頃から7統が棒受網漁業を操業しており、主にごく沿岸で仔アジをねらった操業をしておりました。私の父もその一人であり、幼い時分によく加勢に駆り出されたものでしたが、漁船も設備も小さく、思うような漁獲が揚げられなかったため衰退しておりました。幸いなことに当時父親の使用していた古網があったので漁網にかかる負担は少なく済みました。しかしながら、巻き上げ機等の購入にまわすだけの設備資金はなく、色々融資制度等をあたっては見たのですが、若い私には借り受ける信用もありませんでした。しかし、私の棒受網漁業を絶対やるのだという固い決心は変わらず、民間の金融機関から融資を受けてローラー、発電機、油圧機器、水平魚探等を装備したわけです。こうして平成8年に念願の棒受網漁業に乗り出しました。漁船を建造する際、思い切って2級船を建造していたこともこの棒受網漁業導入にとって好都合となりました。漁場に対する不安も少なく、かつて操業していたことがある父が乗船してくれていることは何より心強く、全く自信が無い船出というわけでもありませんでした。

## 4 操業の実態

私の現在の操業形態を表1に示します。主に6月～12月迄の半年間は棒受網漁業を行い、その他の1月～3月はアラ延縄、4月はイセエビ漁を、5月はモジャコ採捕漁業を組み合わせる操業しております。棒受網漁業という安定した土台があるためその他の操業についてはこの月にどうしても漁獲を揚げなくてはならないとの覚悟が必要なくなり、気持ち的にゆとりを持っての操業ができるようになりました。このゆとりも棒受網漁業開始によるメリットの一つであると思います。棒受網漁業の操業は主に22:00に出港し、魚探を頼りに群を見つけ1日平均2回、多いときで3回の操業を行います。日によ

り漁獲量はまちまちで今日獲れなくても次の日は大漁ということもしばしばで、1日で100万円近い水揚げをしたこともあります。操業当初は漁具の規模が小さく集魚灯の光度も低かったため魚の寄りが悪く“小さな漁具に小さな漁獲”でありましたが、半年もすると棒受網なら食べてゆけるとの確信を得、漁具規模の拡大を決意しました。結果的にこの決断が功を奏し水揚げを飛躍的に揚げることができ、なおかつ現段階の自分に可能な最良の操業スタイルを確立することができました。また、柵網も父親から譲り受け、毎朝棒受網の出荷を済ませた後、乗組員である二人を港におろし、網揚げに向かいます（表2）。柵網漁については、漁獲の多寡ではなく、たまに網揚げに同乗する父の楽しみの一つであります。

図5に私個人の水揚げ金額を示しますが、棒受網の導入により水揚げが増加し、以前と比較すると生活に余裕もできましたし、何より上昇傾向の水揚げ金額は棒受網を開始するにあたって自らが下した決断と、これから続く漁師という職業に自信を与えてくれます。

表1 年間の操業形態

| 月        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 漁業種類     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| アラ延縄漁業   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| イセエビ網漁業  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| モジャコ採捕漁業 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| 棒受網漁業    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| 柵網漁業     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |

表2 棒受網の1日の操業内容

|       |           |
|-------|-----------|
| 22:00 | 出港        |
| 3:00  | 操業開始      |
| 6:00  | 帰港、水揚げ    |
| ～     | 柵網網揚げ、水揚げ |
| 12:00 | 就寝        |

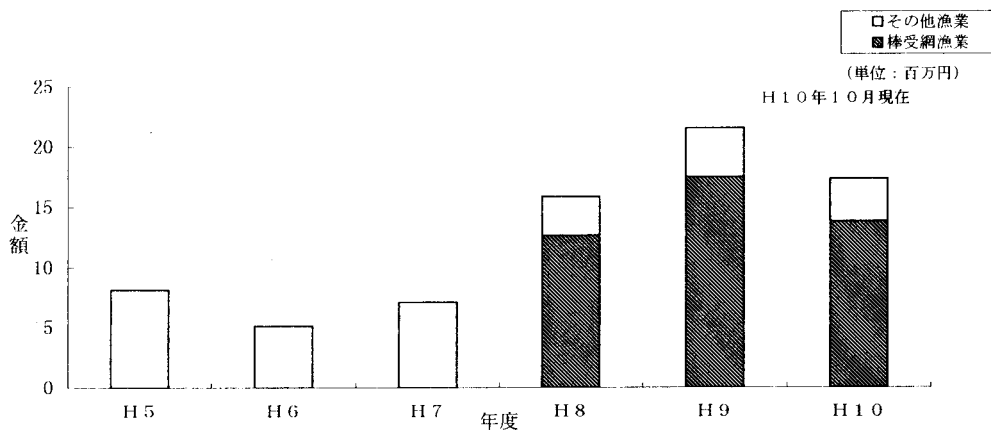


図5 水揚げ金額に占める棒受網漁業の割合

内之浦町における棒受網漁業の水揚げ高の推移を図6に示します。平成6年に1統が再開した棒受網漁業は、平成8年に私を含め3名が、平成9年に1統が加わり、平成10年度現在までに5統が操業するに至っております。現在稼働している5統は操業を開始する前に先駆者の漁船に乗船して漁法について指導を受けるなどして互いに研鑽しあった仲であり、また魚群を発見したら通報し合う良き協力者でもあります。ゆくゆくは船主会を結成しさらに結束力を深めていければ、優良な漁業経営を保っていただけるのではないかと考えております。水揚げ金額も順調に推移しており、図7に平成9年度の内之浦町漁協における漁業種別水揚げの金額割合を示しますが、統数の増加によりその割合も増加し、漁船漁業の中では定置に次ぐ重要な漁業種類となっております。現在では、漁協再建のための大きな原動力になっていると自負しております。主体となる漁獲物はウルメイワシであり初年度と比較すると魚価の単価は下がったものの、5統による操業により、まとまった量の漁獲物が出荷できるというメリットがあり、なおかつ内之浦産のウルメイワシは、脂が少なく、スリムで良い製品ができるとの評判を聞いております。また一部は鮮魚として取り引きされており、水揚げ時も丁寧に扱われるため鮮度が良く安定した魚価で取り引きされております。

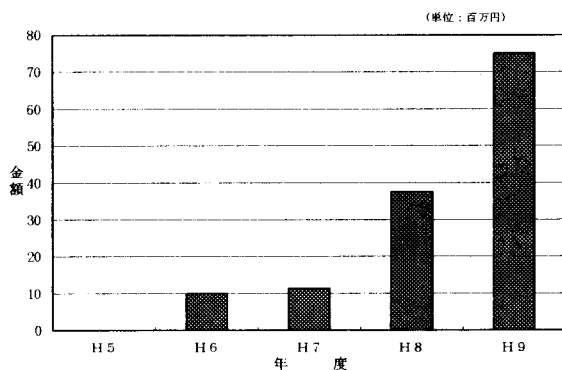


図6 棒受網漁業の水揚げ金額の推移

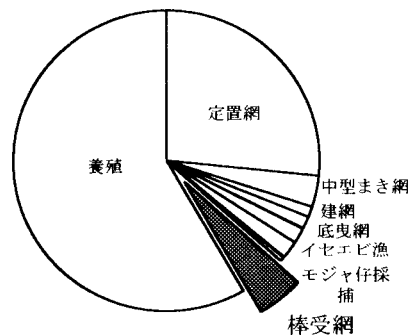


図7 H9年度漁業種別水揚げ金額の割合 (%)

## 5 今後の展望

今後の展望としては、

- (1) 漁船、漁具等の規模拡大
  - (2) 秋から冬場に獲れる大羽ウルメイワシの有効利用
  - (3) カタクチイワシ漁への取り組み
- などが上げられます。

(1)については、ウルメイワシが最も高い値段で取り引きされるのは6月～7月の体長が“たばこ1本分”といわれる時期であり、魚価が普段の2～3倍違うこともあります。したがってこの時期に集中的に漁獲することが水揚げ金額のアップにつながると確信しております。そのためには、漁船漁具の規模を大型化することが重要と考えております。しかしながら、ただ規模を大きくすればよいと言うだけでなく、仲間の同業者とも連携を保ち、資源量との調和を図ってこそ恒久的な操業が可能になることを念頭に置き、これからも次世代につながるような漁業を続けていければと考えております。2)については前述しましたように冬場の太羽ウルメは取り引きされる値段が安いので何らかの付加価値を付ける必要があります。今後、太羽ウルメの消費拡大を図るため一夜干し、みりん干し等の商品化や、料理方法の考案により地域の特産品としてその魅力を各種イベントでPRすることが、ひいては町の活性化にもつながるのではないかと考えております。3)について述べると、内之浦町地先は、魚影の濃い海であり、少なからずカタクチイワ

シも回遊しております。船上からも群は良く確認されているのですが、どういう訳かこれらは我々の網に入網することがありません。試行錯誤を繰り返して操業しておりますが、これと言った漁獲方法を見つけだせないでいるのが現状です。カタクチイワシは、2月～4月頃漁獲され、カツオ漁の餌として高値で取り引きされております。これらを漁獲する術を身につけることができれば、冬場においてさらなる漁業の組合せが可能となり、水揚げ金額の増加が期待できます。やはり先進地に赴き研修するのが近道であると感じる昨今です。またこれらの項目に加え、操業区域の拡大がなされればさらなる漁獲量の増加に繋がると期待しているのも事実なのですが・・・。

最近では近隣の漁協からも着業希望者が出ており、乗船しての操業実習を希望される方の受入も予定しております。この方たちとも切磋琢磨し、内之浦の棒受網漁業を、内之浦のウルメを盛り上げていければと考えております。

## 6 最後に

私たちの内之浦町漁協は関係各位の御理解と御協力により再建の第1歩を歩みだしました。以前のような活力ある漁村づくりを目指し組合員も一丸となって再建に邁進しております。内之浦町は遠隔地ではありますが、若く前途有望な漁業者が揃っている地域であり、将来的に鑑みましてもすばらしい団体になりうると自負しております。今我々は地域活性の気運を盛り上げ、各種行事を計画して精力的に活動しておりますので関係団体皆様のさらなる協力をお願いいたします。

最後に私の夢を語らせて下さい。それは今年2歳になる長男と将来共に海に出ることであり、父、私、そして長男の三世代が海に生きることです。漁業はとかく、きつい、汚いと言われがちであり、子供には漁業をさせたくないと言われる方も多いと聞きます。しかしながら、就職難といわれる昨今、親が我が子に自信を持って薦められる職業はそう多くはないと思っております。私は漁業という職業を通じ、内之浦の海を学んでいるような気がします。都会にはないこの気まぐれな教材を前に親子で教卓を囲むことが、子供に対する私のただ一つのわがままであると確信しております。

# 沖合漁業に魅せられて

名瀬漁業協同組合 藤田 秀光

## 1 地域と漁協の概要

私の住む名瀬市は、鹿児島から南へ約380 km離れた洋上にある奄美大島の中央に位置し、北は黒潮が流れる東シナ海、南は太平洋に面しています。平均気温は約21℃と四季を通じて温暖な海洋性亜熱帯気候にありますが、一方では年間3,000mmを越える雨が降ります。また、台風の常襲地帯としても知られています。人口は約4万4千人を有し、県下第5位の都市として奄美群島の政治、経済、文化の中心地となっています。

名瀬漁業協同組合は、正組合員143名、准組合員239名の計382名で、主な漁業は、浮魚礁を利用したカツオやマグロの一本釣りや曳き縄、ホタやチビキなどの瀬物一本釣り、延縄、刺網、潜水器漁業などが営まれています。平成9年の水揚げ量は、平年並みの1,390トンでしたが、水揚げ額は7億5千万円で魚価安のため、ここ数年減少傾向にあります。

## 2 漁業着業の経緯

私の父親は、特産品である大島紬加工をする傍ら、時々沖に出て、ホタ釣りをしていましたが、紬が不況になってきたために、だんだんと漁業への比重が大きくなりました。そんな時に父に連れられ沖に釣りに出た時に見た紺碧の海、水平線、そして見渡す限り何もなくてこの世で自分がたった一人になったような爽快な気分を味わい、この印象が忘れられないものとなりました。中学を卒業して水産高校に進学しました。当時水産高校に進学を希望するのは自分一人で学校の先生にも普通高校を進められましたが、その時から漠然と海で仕事がしたいと思っていましたので、迷わず枕崎の鹿児島水産高校へ進学しました。卒業後、島に戻りコーラルマリン（株）に就職し、龍郷でグラスボートの操船をしていましたが、やはり海への思いを満足させることができずにいました。その時、今まで漠然としてもやもやとしていたものがぱっと開け、自分は漁師になりたいんだという目標をはっきりと認識しました。そうすると、もう迷わずに漁師になる道をまっしぐらという感じで、すぐ退職しました。そして、船を買うための資金を得るために、串木野の遠洋マグロ船に2年弱乗り、平成4年に今度は漁師になるために再び島に戻ってきました。奄美群島振興開発基金からお金を借り、船を購入し、漁業への挑戦が始まりました。

漁業経験のない自分にとっては、漁場（曾根）が全くわからないため、瀬物一本釣り漁業で生活するのは無理と判断しました。その点、浮き魚礁を利用する釣りは、誰でもポイントがわかるため取り組みやすく、しかも延縄と違って道具代が少なくてすみます。またマグロ船にも乗っていたこともあり、自然と旗流し漁業を営むことになりました。名瀬で一番水揚げをする先輩から漁法や道具を教わり、先輩の船について行って漁をする日々が

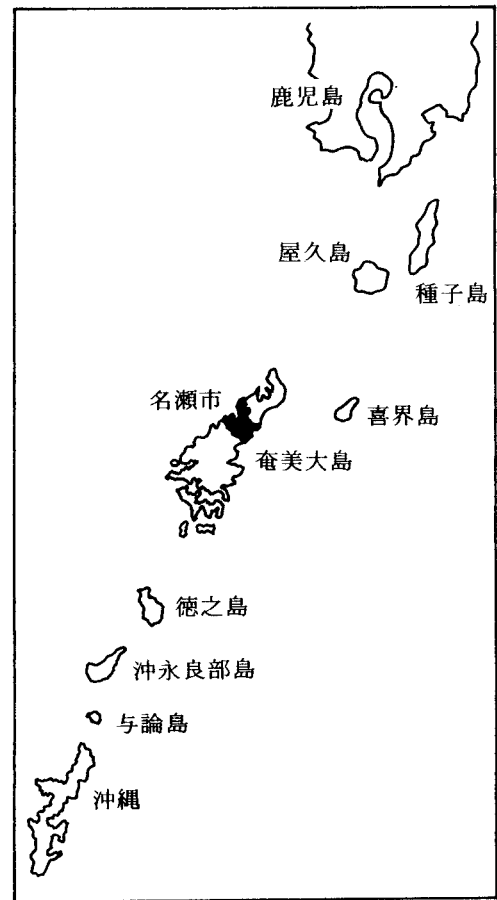


図1 位置図

始まりました。なかなか先輩のように、漁獲がなく、あせる毎日でしたが、そんな時、串木野のマグロ船時代に一緒に乗船していた外国人が日本人以上によく働いていたのを思いだし、「何くそ、自分だって」という思いで頑張らなければという使命感みたいなものが沸いてきて、あきらめずに漁業を続けていきました。最初の1年目は、惨憺たる結果で、2年目は約4トン、270万円ほどの水揚げができましたが、大幅な赤字でした。未熟で水揚げが安定していなかったこの平成6年に名瀬市の助成を受けて実施している後継者の確保育成のための「漁業後継者育成事業」により、月額5万円を1年間支給していただき、たいへん助かりました。まだ、一人前でなく収入も安定していない漁業を目指すUターン者にとっては非常に有り難く、安心して漁業が続けられ、技術習得に努められました。その結果、年々水揚げも伸び、600万円ほど水揚げできるようになりました。しかし、まだ先輩方と比べるとまだまだです。そのため去年の暮れからソデイカ釣り漁業を取り入れました。大東島でのソデイカ漁は、一航海1週間ほどで海上での生活が長くなりますが、水揚げの向上にもつながり、そしてまた沖縄船などの県外船からも良い刺激を受け、今では自分の願望であった漁師生活の一部となっております。このようにソデイカ漁業を導入して、水揚げも安定してきました。5年ほどが経ち、やっと漁業者らしくなり、これでやっていけると自信が持てるようになりました。

### 3 操業の状況

私は、マグロ旗流しとソデイカ釣りをやっています。操業形態は、表に示したとおりで、ソデイカは11～2月頃操業しています。マグロ釣りは時期に応じて漁場を変えています。春先は、海洋水産資源開発センターが設置した東側（ACMI跡）の中層魚礁、4～8月頃は沿岸の浮魚礁と西側の中層魚礁で操業します。秋口になると魚影が薄くなるため、集中する浮き魚礁での操業は避けて、臥蛇島、諏訪之瀬、中之島で瀬付きマグロ（キメジ）をねらいます。型はやや小さいのですが、量でこなせることと、単価が名瀬漁協で500～700円と他のマグロより100～200円ほど高いため、瀬付きの操業をしています。漁法は、旗流しで、道具を3組流しております。深いところは、あまりカツオ船の影響を受けないため、100ヒロくらいの深い所から60ヒロくらいまでをねらっています。魚礁は、鳥がいるところや魚探反応があるところをねらい、魚が付いている魚礁を早く見つけることが釣果につながります。潮が速い時は、2マイルほど潮上から投入することもあります。通常は1マイルくらいから流します。漁場でのトラブルはあまりありませんが、地元の沿岸の浮魚礁では、曳き縄船も多いため、競合を避けるため、なるべく沖合の魚礁に行きます。

表1 年間操業形態

| 漁業種類 \ 月    |           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-------------|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| ソ デ イ カ     |           | → |   |   |   |   |   |   |   |   |    | ←  |    |
| マ<br>グ<br>ロ | 近 海 浮 魚 礁 |   |   |   | ← | → |   |   |   |   |    |    |    |
|             | 東側中層魚礁    |   |   | ← | → |   |   |   |   |   |    |    |    |
|             | 西側中層魚礁    |   |   |   | ← | → |   |   |   |   |    |    |    |
|             | 瀬 付 き     |   |   |   |   |   |   |   |   | ← | →  |    |    |

表2 9年度の水揚げ実績

上段：水揚量(kg)，下段：水揚金額(千円)

| 魚種 \ 月 | 4月    | 5月  | 6月  | 7月    | 8月    | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計    |
|--------|-------|-----|-----|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| キハダ    | 1,162 | 351 | 343 | 38    |       | 68  |     |     | 26  |     |     |     | 1,987 |
|        | 903   | 113 | 114 | 25    |       | 56  |     |     | 37  |     |     |     | 1,247 |
| キメジ    |       |     |     | 43    | 577   | 331 |     |     |     |     | 23  |     | 975   |
|        |       |     |     | 26    | 294   | 245 |     |     |     |     | 29  |     | 593   |
| シビ     | 219   | 90  | 14  | 37    | 46    | 14  |     |     | 29  |     |     |     | 449   |
|        | 114   | 34  | 4   | 13    | 25    | 10  |     |     | 21  |     |     |     | 222   |
| トンボ    | 387   | 15  | 47  |       |       | 29  |     |     |     |     |     |     | 477   |
|        | 137   | 3   | 10  |       |       | 15  |     |     |     |     |     |     | 166   |
| サワラ    |       |     |     | 6     |       | 297 | 115 |     |     |     |     |     | 418   |
|        |       |     |     | 4     |       | 205 | 53  |     |     |     |     |     | 261   |
| シイラ    | 12    |     |     | 10    |       |     |     |     | 9   |     |     |     | 31    |
|        | 5     |     |     | 4     |       |     |     |     | 6   |     |     |     | 15    |
| カツオ    | 11    |     |     |       |       |     |     |     |     |     |     |     | 11    |
|        | 4     |     |     |       |       |     |     |     |     |     |     |     | 4     |
| コメジ    |       |     | 484 | 897   | 511   | 73  |     |     |     |     |     |     | 1,965 |
|        |       |     | 268 | 311   | 229   | 56  |     |     |     |     |     |     | 864   |
| ソデイカ   |       |     |     |       |       |     |     | 346 | 391 | 158 | 443 | 285 | 1,623 |
|        |       |     |     |       |       |     |     | 340 | 513 | 177 | 359 | 233 | 1,621 |
| イカ     |       |     |     |       |       |     |     | 9   | 15  | 5   | 40  |     | 69    |
|        |       |     |     |       |       |     |     | 3   | 6   | 3   | 16  |     | 29    |
| ホタ     |       |     |     |       |       |     |     |     | 2   |     |     |     | 2     |
|        |       |     |     |       |       |     |     |     | 3   |     |     |     | 3     |
| キホタ    |       |     |     |       |       |     |     |     | 4   |     |     |     | 4     |
|        |       |     |     |       |       |     |     |     | 4   |     |     |     | 4     |
| サザエ    |       |     | 15  |       |       |     |     |     |     |     |     |     | 15    |
|        |       |     | 9   |       |       |     |     |     |     |     |     |     | 9     |
| 合計     | 1,791 | 456 | 903 | 1,031 | 1,134 | 811 | 115 | 355 | 475 | 163 | 506 | 285 | 8,025 |
|        | 1,164 | 150 | 404 | 382   | 548   | 587 | 53  | 343 | 590 | 180 | 404 | 233 | 5,038 |

ソデイカ釣りは、沖永良部島や与論島のように好漁場が近くにないこと、奄美周辺漁場では冬場、季節風の影響を受けやすいこと、漁獲が不安定なことから大東島の西及び北の海域とラサ島周辺で操業します。水深は概ね400～500mくらいで、日の出とともに15組の漁具を流し、夕方まで操業します。イカが釣れたら手鉤でひっかけ、内蔵を全部取りだし、パーチを敷き直接氷にふれないようにします。イカは持ちがいいので4日間ほど操業をしてから帰港します。単価は、700～800円程度で、鹿児島に出荷しています。経費を考えると、これ以上魚価が下がると苦しくなってきますが、コンスタントな漁獲が期待できることや近場の漁場では競争が激しいことなどから、ここでの操業を続けていくつもりです。



#### 4 今後の課題と取り組み

##### (1) 中層浮魚礁の設置

今までの漁獲の経験から、中層魚礁（それもトップがなるべく浅いもの）は魚の付きが良く、また耐久性もあることから是非中層魚礁を多く設置してもらいたいと思います。そのためにも、与論町漁協等で設置されているように、名瀬漁協においても浮き魚礁組合を設置し、魚礁の維持管理や事業費への一部負担金を拠出することも今後は必要だと考えています。

##### (2) ソデイカの資源調査

ソデイカは、マグロ釣りの漁業者や奄美群島全体にとっても、冬場の重要な収入源となり、ソデイカ漁の占める割合は年々高くなると思います。そのため、漁獲圧が大きくなり、資源の減少が心配です。是非試験場などで資源調査や生態調査を実施していただき、この資源を枯渇させないように、私たちも資源管理などを進んで考えていかなければいけないと思います。

##### (3) 流通について

今、ソデイカやキハダマグロなどは鹿児島に送っています。しかし、鹿児島での価格も年々下がっています。魚を送るだけでコンテナ使用料、運賃、トラックの使用料などで1万5千円ほどかかります。その他に氷代や漁連と名瀬漁協での手数料がかかります。少しでも値がするよう鮮度保持にも努力していますが、値が上がる気配はありません。そこで、漁協でも各地の市場情報等を収集提供してほしいと思います。それによってもっと幅のある出荷体制づくりができればいいなと思っています。

##### (4) 環境問題

奄美群島は、エメラルドグリーン的大海とサンゴ礁に囲まれた豊かな海です。しかし、近年は赤土や生活雑排水、ゴミの投棄など年々海を巡る環境は悪くなっています。私たち漁師も当然のことながら海にゴミを捨てず持ち帰る習慣を身につけなければなりません。特にソデイカ釣りでは、水中ライトを使うため多量の乾電池を使います。このような有害物質を含むものや海では分解されないものなどは必ず持ち帰るようにしましょう。私たちが実践し、海を監視し、声を上げていかなければ奄美の海は守れないと思います。

##### (5) グループの設立

私がこうして漁業を続けてこれたのも、仲間がいたからです。いろいろな仲間から情報を得、それを自分たちで創意工夫し、漁具の改良を行ったり、遠い漁場まで行ったりすることができていると思っています。こういった同業者の仲間とグループを結成して他のグループと交流を図ったり、先進地へ視察研修したり、自分らの要望をまとめて要求したりと、いろいろな活動が考えられます。一人の力では何もできません。私が今まで提言したことも、一人では何もできません。だから、是非結成できるよう今後は働きかけていきたいと思っています。

最後に、まだ漁業を初めて6年しか経っていない若輩者が、この6年間で考えたこと思いついたことをしゃべらせていただきました。まだまだ、いろいろと勉強していかなければと思っています。

大東島に行くときなどは、中学生の時に感じた印象が、今現実のものとなったなあとしみじみ感じております。これからは漁業というものにどんどん欲が出て、新たな漁場、新たな漁法を求め、今後も私の挑戦を続けていきたいと思っています。まだ何10年もある将来、その間、ずっと海で食べていけるよう、漁師が続けられるよう願ってやみませんので、皆さん同様絶え間ない努力を続けて参りたいと思っていますので、今度ともご指導よろしくをお願いします。

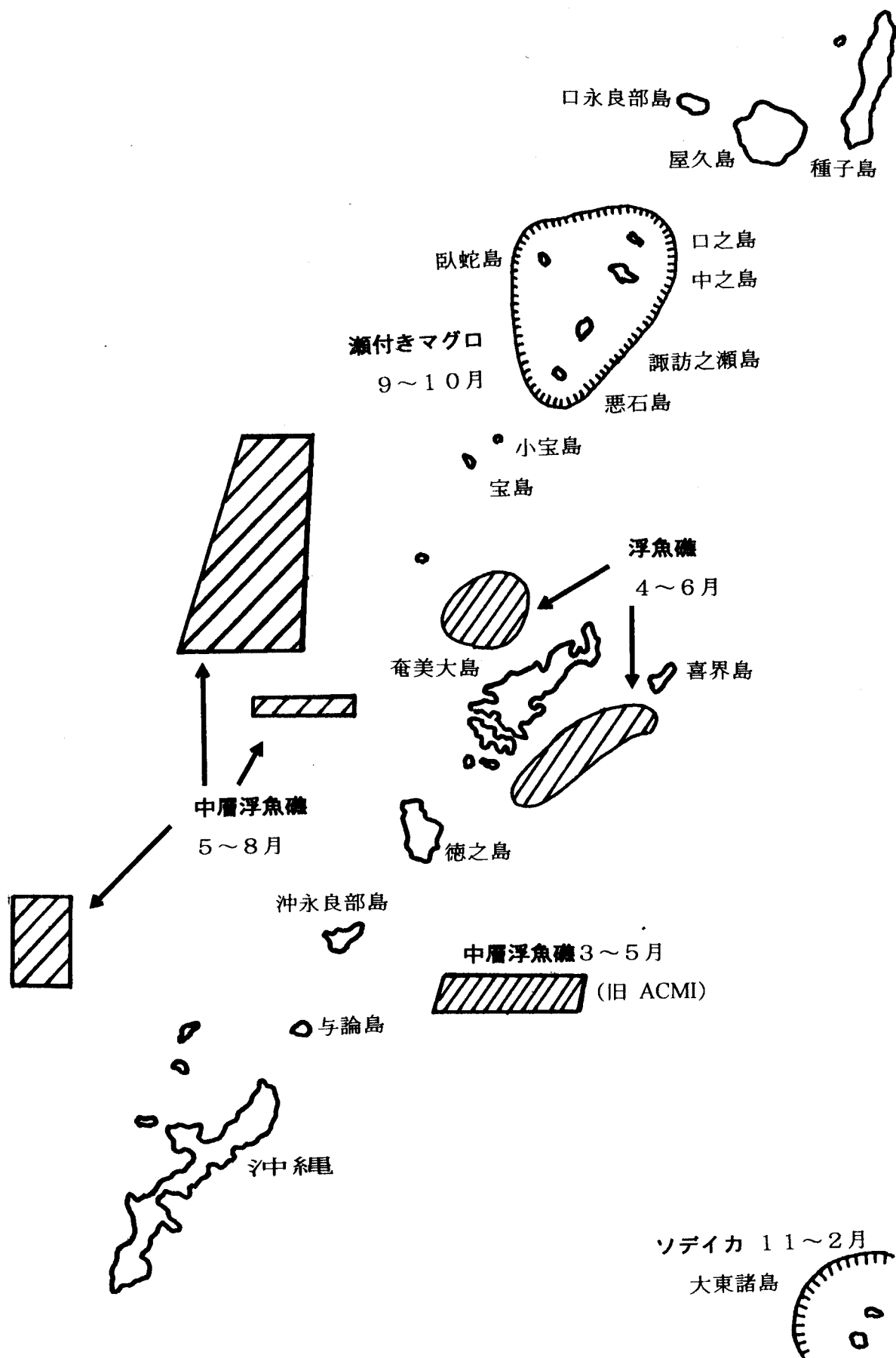
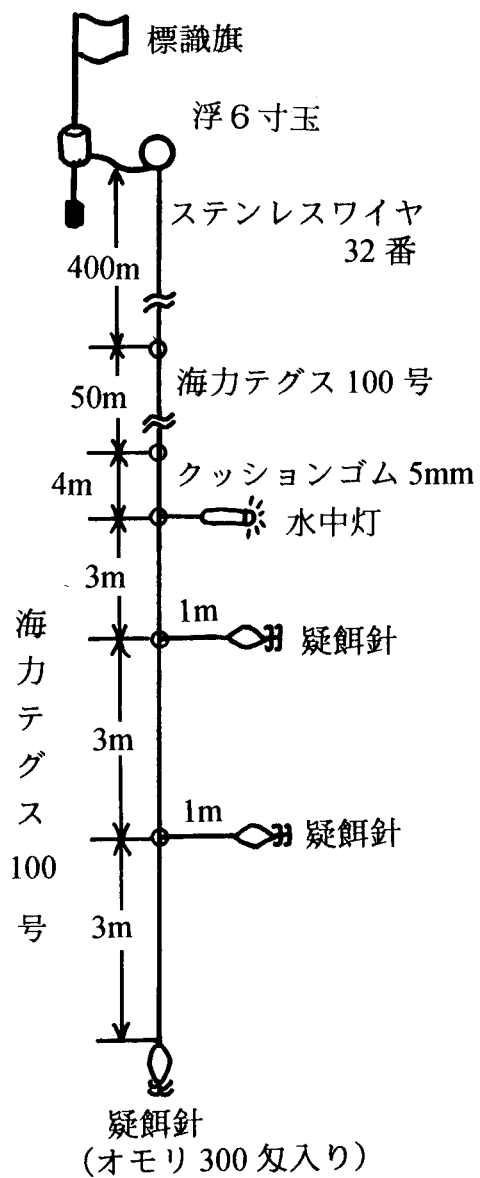
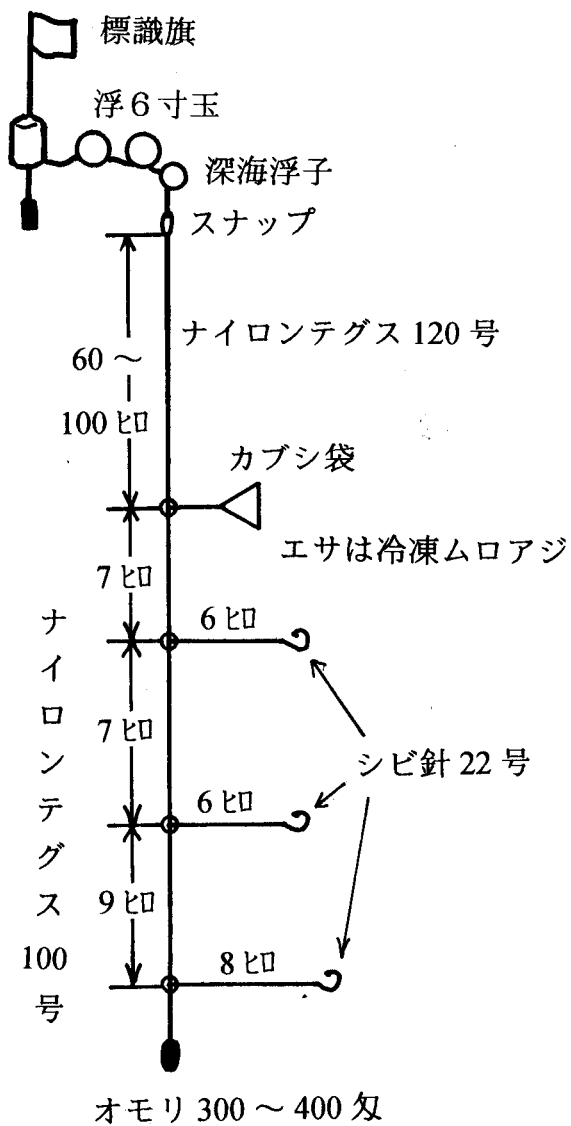


図 2 操業海域図



ソデイカ旗流し



マグロ旗流し

図 3 漁具図

